

令和 3 年 2 月 1 2 日  
教 育 委 員 会 資 料

## 意見の聴取について

文化芸術基本法第 7 条の 2 第 2 項の規定に基づく意見の聴取について、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 2 5 条、東京都板橋区教育委員会の権限委任に関する規則第 2 条第 1 項の規定により、教育長が区長原案に同意したことを、同 2 条第 3 項に基づき報告する。

## 記

- 1 件名  
意見の聴取について
- 2 内容  
別紙のとおり
- 3 決定日  
令和 3 年 2 月 5 日

2 板区文第 181 号

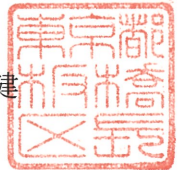
令和 3 年 1 月 26 日

板橋区教育委員会

教育長 中川 修一 様

板 橋 区 長

坂 本 健



意見の聴取について

令和 3 年第 1 回東京都板橋区議会定例会に提出する下記案件について、文化芸術基本法第七条の 2 第 2 項の規定に基づき、貴委員会の意見を求めます。

記

1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025（原案）について



2板教総第851号

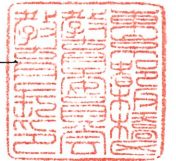
令和3年2月5日

板橋区長

坂本 健 様

板橋区教育委員会

教育長 中川 修



意見の聴取について（回答）

令和3年1月26日付2板区文第181号により意見聴取のあった下記案件については、区長原案に同意します。

なお、本件については、「東京都板橋区教育委員会の権限委任に関する規則」第2条第1項に基づき、教育委員会から委任を受けていることを申し添えます。

記

1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025（原案）について

# 社会情勢への対応と新たな取組

## SDGs の推進

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成 27 年 9 月の国連サミットで採択された令和 12（2030）年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17 のゴール・169 のターゲットから構成され、地球上に「誰一人取り残さない」ことを誓っています。本ビジョンでは SDGs の 17 のゴールのうち、8 つのゴール達成に貢献します。

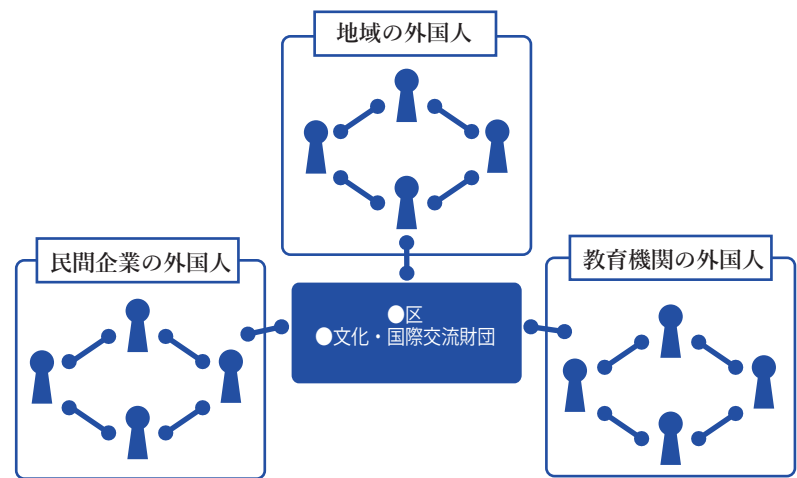


## 新型コロナウイルス感染症への対応など、持続可能な社会の実現に向けた新たな取組

- 新しい生活様式に対応した文化芸術活動の場を創出  
デジタルトランスフォーメーションの一環として、インターネットなどを活用した文化芸術活動を推進することで、これまで以上に文化芸術を身近に感じたり、触れたりするきっかけを提供します。  
一方、公的空間や屋外施設などの多様な場の活用により、直接文化芸術を体感する機会も確保し、持続可能な文化芸術活動を支援していきます。
- 外国人ネットワークの構築と情報発信力の強化  
様々なセクションで活動する外国人や、地域に暮らしている外国人をつなぐネットワークを新たに構築します。  
区や文化・国際交流財団がハブとなり、情報を収集し、そこから得た知見を施策立案に活かしたり、幅広い外国人の方々に情報が伝わるネットワークづくりを推進したりしていきます。



文化芸術活動の動画配信事業：板橋おんらいん寄席



区、文化・国際交流財団がハブの役割を担う外国人ネットワークづくりの例



いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025  
概要版  
編集 板橋区区民文化部文化・国際交流課  
〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号  
TEL 03-3579-2018 FAX 03-3579-2046  
kb-bk-kanri@city.itabashi.tokyo.jp  
令和 3 年 3 月発行  
刊行物番号 R02-107



## いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 概要版





策定にあたって

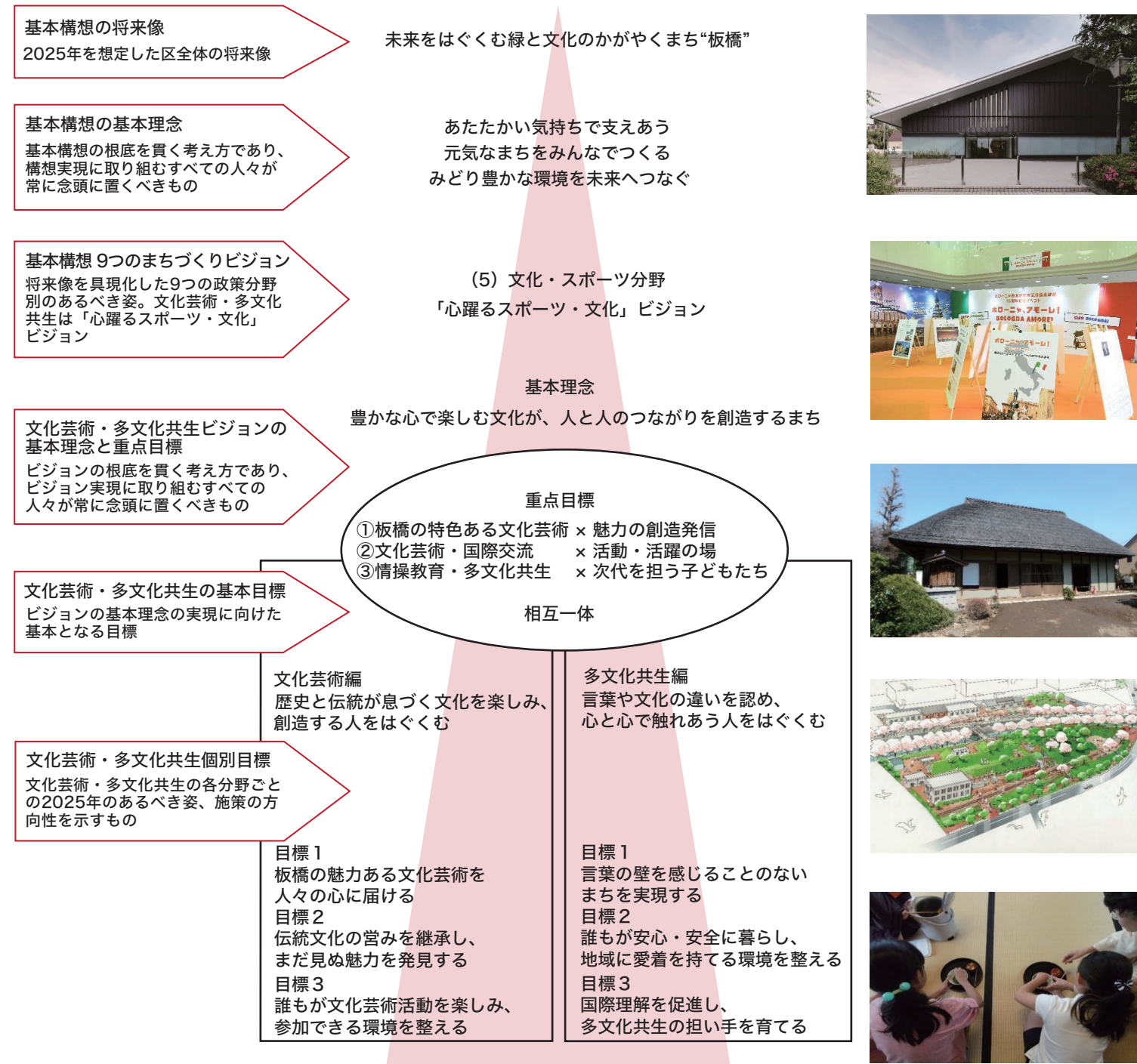
基本理念

策定の背景と目的

豊かな心で楽しむ文化が、  
人と人のつながりを創造するまち

文化芸術振興の個別計画である「板橋区文化芸術振興基本計画 2020」、並びに多文化共生推進の個別計画である「板橋区多文化共生推進計画 2020」が令和 3 年 3 月に改定時期を迎えると同時に、文化芸術振興の指針である「板橋区文化芸術ビジョン」も策定から 10 年を経過します。そこで、法制度や区を取り巻く環境の変化に対応するとともに、文化芸術・多文化共生を一体的に推進することで相乗効果をもたらすための総合的なビジョン「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025」を策定し、誰もが心豊かに暮らせる地域社会の実現をめざします。

ビジョンの体系



重点目標と文化芸術・多文化共生の目標

重点目標

文化芸術と多文化共生に共通し、一体的に取り組むことで相乗効果を促す取組を、ビジョンの「重点目標」として3つ設定し、それらに基づいて、各施策を展開します。

- 1  
板橋の特色ある文化芸術  
×  
魅力の創造・発信
- 2  
文化芸術・国際交流  
×  
活動・活躍の場
- 3  
情操教育・多文化共生  
×  
次代を担う子どもたち
- 「絵本のまち」のブランド化  
●国内外から注目される文化芸術  
●都市交流を活かした文化振興・魅力発信
- 文化芸術活動・国際交流活動支援  
●文化芸術活動拠点としての環境整備  
●財団による組織強化と施設運営
- 児童の国際理解教育・日本語教育  
●児童の文化芸術鑑賞・活動  
●未就学児の文化芸術鑑賞・活動



文化芸術・多文化共生の目標

基本理念の実現に向けて、文化芸術・多文化共生の基本目標を設定するとともに、それぞれの「2025 年のあるべき姿」を実現するための個別目標と施策を示します。

- 文化芸術基本目標
- 歴史と伝統が息づく文化を楽しみ、  
創造する人をはぐくむ
- 多文化共生基本目標
- 言葉や文化の違いを認め、  
心と心で触れあう人をはぐくむ

区内のそれぞれの地域が持つ文化や魅力を発掘しつつ、「絵本のまち」や光学・印刷などの産業分野に代表される板橋の地域ならではの文化と併せて発信し、区内外を問わず、誰もが文化芸術活動の主役になれるまちをめざします。

- 文化芸術個別目標と各施策
- 目標 1 板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける
- 1 個性あふれる文化芸術の創造・享受
- 2 文化芸術活動や発表の機会の充実
- 目標 2 伝統文化の営みを継承し、まだ見ぬ魅力を発見する
- 1 伝統文化の継承と浸透
- 2 文化財の発掘と保存・活用
- 目標 3 誰もが文化芸術活動を楽しみ、参加できる環境を整える
- 1 伝統文化の継承と浸透
- 2 文化財の発掘と保存・活用
- 3 障がい者の文化芸術活動の推進
- 多文化共生個別目標と各施策
- 目標 1 言葉の壁を感じることのないまちを実現する
- 1 多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供
- 2 日本語及び日本社会に関する学習機会の提供
- 目標 2 誰もが安心・安全に暮らし、地域に愛着を持てる環境を整える
- 1 日常生活における各種支援
- 2 災害に対する備えの充実
- 目標 3 国際理解を促進し、多文化共生の担い手を育てる
- 1 交流事業の実施及び活動支援
- 2 国際理解・多文化理解に関する啓発事業などの実施



# いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025

## 原案



板橋区



## はじめに



文化芸術は、人間が人間として生きるための糧となるものであり、心豊かで活力のあるまちの形成には欠かせないものです。板橋区は、長い歴史にはぐくまれた伝統芸能や伝統工芸が数多く残されている一方、近年では、近郊農業や産業、ものづくりのまちとしての側面も持ちつつ、現在は「絵本のまち」のような、新たな価値の創造にもチャレンジしています。

一方、多文化共生の分野に目を向けると、区における外国人住民数は増加傾向にあり、令和3（2021）年1月現在で2万7千人を超え、110を超える多様な国籍・地域の方が暮らしています。区が「東京で一番住みたくなるまち」であるためには、同じ地域社会の仲間として、外国人住民の方々と共生していくための取組が欠かせません。

区では、平成23（2011）年に「板橋区文化芸術振興ビジョン」を策定した後、「板橋区文化芸術振興基本計画2020」と「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」をそれぞれ策定し、様々な施策を推進してきましたが、区の魅力をより高めるためには、両分野を一体として取り組んでいくことが望ましいと考えます。

そこで、「板橋区文化芸術振興ビジョン」に多文化共生の視点を取り入れ、文化芸術・多文化共生のあるべき姿の具体化と、その実現に向けた施策を示すことをめざし、このたび、「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」を策定しました。このビジョンでは、文化芸術・多文化共生がともにめざすべき基本理念を「豊かな心で楽しむ文化が、人と人のつながりを創造するまち」と決めました。これは、人々が文化芸術を楽しむことを通して、多様性を受け入れることができる心豊かなまちが形成されることを表現しています。また、新型コロナウイルス感染症の流行による「新しい日常」への行動変容や、国連サミットで採択されたSDGsへの貢献などの、新たな課題や取組への方向性も示しています。これらの理念や取組の方向性に向けて、区民の皆様や関係団体などとともに、ビジョンを推進していきます。

最後に、今回の策定にあたり多大なるご尽力をいただきました、いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会・部会の委員の皆様をはじめ、各種調査などを通して貴重なご意見をいただいた皆様に心から御礼申し上げます。

令和3年 月

板橋区長

坂本 健



## 目 次

### 第1章 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025

1	いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 の策定にあたって	
(1)	策定の背景と目的	2
(2)	性格と期間	3
(3)	環境の変化や動向	4
(4)	主な取組と課題	4
2	基本理念と各分野の目標	
(1)	基本理念	5
(2)	重点目標	6
(3)	各分野の基本目標	6
(4)	各分野の個別目標	7
3	体系と関連計画	
(1)	体系	8
(2)	関連計画	9
4	重点目標	10
5	施策一覧	16

### 第2章 文化芸術編

1	文化芸術の意義	18
2	文化芸術の領域	18
3	区の特徴	19
4	位置づけ	19
5	前計画における成果と課題	20
6	個別目標	22
7	評価指標	30

### 第3章 多文化共生編

1	多文化共生の意義	32
2	区の現状	32
3	位置づけ	32
4	前計画における成果と課題	34
5	個別目標	36
6	評価指標	42

### 第4章 ビジョンの推進のために

1	推進体制	44
2	各主体に期待される役割	44

### 第5章 社会情勢への対応と新たな取組

#### 【参考資料】

策定経過	48
------	----

## 第 1 章



いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025

# 1 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025の策定にあたって

## (1) 策定の背景と目的

区は、文化芸術振興の方向性を示す指針として、平成23(2011)年3月に「板橋区文化芸術振興ビジョン」(以下「文化芸術ビジョン」という)を策定しました。

また、文化芸術ビジョンを実現するための個別計画として、「板橋区文化芸術振興基本計画2020」を、並びに多文化共生を推進する個別計画として、「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」を策定し、各事業を推進してきました。

両計画は、ともに板橋区基本構想で掲げる「心躍るスポーツ・文化」ビジョンを実現するための個別計画であり、令和3(2021)年3月に改定時期を迎えます。また、同時に文化芸術ビジョンは策定から10年が経過します。この間に、改正文化芸術基本法においては、「年齢、障害の有無、経済的な状況」の文言が追記され、多様性を受け入れる社会包摂<sup>注1</sup>の環境整備に関する記載が拡充されました。

そこで、今回の策定にあたっては、文化芸術ビジョンに多文化共生の視点も加え、両計画の性格を併せ持つ総合的なビジョンとして「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」(以下「ビジョン」という)を策定しました。これにより、単に文化芸術振興だけでなく、国際交流や福祉、教育などの施策を含めた多文化共生施策を推進し、誰もが心豊かに暮らせる地域社会を実現します。

注1…違いのある人たちを、違いを尊重したまま受け入れる社会をめざそうという考え方

「評価から見る“社会包摂×文化芸術”ハンドブック」  
文化庁×九州大学 共同研究チーム

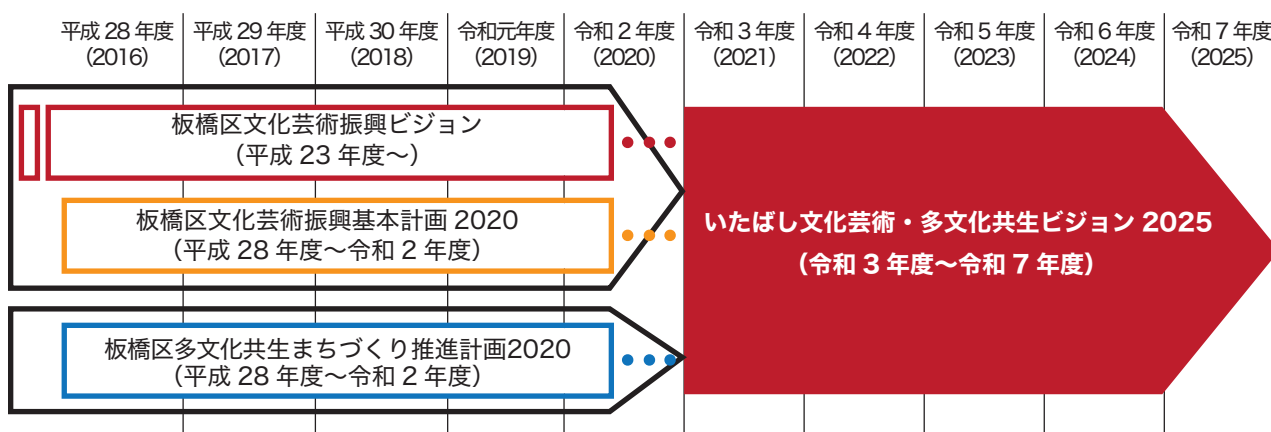


## (2) 性格と期間

文化芸術基本法及び障害者による文化芸術活動の推進に関する法律（以下「障害者文化芸術推進法」という）、並びに東京都板橋区文化芸術振興基本条例に基づく文化芸術の振興にかかる基本的な計画であるとともに、地域における多文化共生推進プランを踏まえた多文化共生の推進にかかる基本計画の性格を併せ持ちます。

また、板橋区基本構想で掲げる「心躍るスポーツ・文化」ビジョンの実現に向け、板橋区基本計画 2025 の後半5年間における文化芸術・多文化共生分野のあるべき姿の具体化とその施策を示した基本計画としても位置づけます。

なお、ビジョンの期間については、下記の通りです。





### (3) 環境の変化や動向

- 平成29（2017）年6月に文化芸術基本法が施行され、文化芸術そのものの振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業などの関連分野を法の範疇に入れるとともに、「表現の自由」を礎とする文化芸術により生み出される価値を文化芸術のさらなる継承、発展及び創造につなげていくことが求められることとなりました。
- 平成30（2018）年6月に障害者文化芸術推進法が施行され、文化芸術活動を通して障がい者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進をめざす必要があります。
- 平成31（2019）年4月には改正出入国管理法が施行され、新たな在留資格である「特定技能」が創設されるなど、新型コロナウイルス感染症の影響はありながらも、毎年一定数の外国人の転入が想定されます。外国人材の受け入れや、地域での外国人との共生を推進していくことの重要性がより一層高まっています。
- 文化の祭典でもある東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会（以下「東京2020大会」という）は、新型コロナウイルス感染症の影響により、開催延期の判断が下されましたが、文化芸術の魅力発信や多様な人々の交流を創出する場となることが期待されており、文化芸術・多文化共生の両面から体制整備を進める必要があります。
- 平成27（2015）年9月の国連サミットで採択されたSDGsは、「誰一人取り残さない」持続可能な社会づくりのための目標であり、その包摂性は、文化芸術と多文化共生の社会包摂機能に通ずるものです。
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により、様々な活動が制限される中、心の豊かさを保つ文化芸術活動の灯を消さないための新たな取組や、災害などの危機発生時の外国人への支援の重要性などが再認識されました。

### (4) 主な取組と課題

前計画に取り組む中で、以下のような課題が浮かび上がりました。ビジョンを推進する上で、重点目標をはじめ、課題解決に向けた様々な取組を進めます。

前計画の成果と課題の詳細については、文化芸術編（20・21ページ）、多文化共生編（34・35ページ）に記載します。

- 美術館の大規模改修、板橋区民文化祭の充実、史跡公園整備計画の策定などの成果を上げてきましたが、文化会館の老朽化や指定管理者と公益財団法人板橋区文化・国際交流財団（以下、「文化・国際交流財団」という）の役割分担が重複しているなどの課題があります。
- 海外姉妹友好都市との交流事業の充実や国際理解教育事業の拡大、サイン・行政情報の多言語化に取り組み、一定の成果を上げているものの、外国人住民数が大幅に増加しており、多文化共生を推進する取組のさらなる強化が必要となっています。

## 2 基本理念と各分野の目標

### (1) 基本理念

#### “豊かな心で楽しむ文化が、人と人のつながりを創造するまち”

板橋区は、豊かな自然に恵まれたことで、古くからの郷土芸能が数多く残されている一方、多くの人々が行き交う宿場町として栄えた歴史から、新しい文化の集積地でもありました。その後、近郊農業が発展しながらも、ものづくりのまちとしての一面も持つなど、様々な歴史的背景が存在します。

さらに、海外都市との文化交流により、「絵本のまち」のような特色を持つようにもなりました。このような環境のもと、人々が板橋ならではの文化や芸術を楽しむことで、豊かな心や創造性がはぐくまれると同時に、相互に理解しあい、多様性を受け入れることができる価値観を持つ人が育っていきます。

板橋で暮らす外国人が年々増えている中で、このような価値観を持つ人は、欠かせない存在です。人種や文化の垣根を超えて人々がつながり、安心して安全な、暮らしやすいまちを実現するために、文化が大きな役割を果たしています。

板橋ならではの文化と、外国人が持つ固有の文化が混ざり合い、新しい価値や活力が生まれることで、まちににぎわいが創出されています。

また、区の2025年のあるべき姿を示す板橋区基本構想においては、3つの基本理念「あたたかい気持ちで支えあう」「元気なまちをみんなでつくる」「みどり豊かな環境を未来へつなぐ」が掲げられており、これらの理念からは「支えあい」「にぎわいと心の豊かさ」「次世代へつなぐこと」という要素が抽出できます。

このビジョンで示す基本理念は、区の歴史や伝統、特色と板橋区基本構想における3つの基本理念の要素が合わさって、区の文化芸術・多文化共生のあり方を表現しています。



## (2) 重点目標

文化芸術と多文化共生に共通し、一体的に取り組むことで相乗効果が生まれる施策を、重点目標として設定します。詳細は10ページから記載します。

**重点目標① 板橋の特色ある文化芸術 × 魅力の創造・発信**

**重点目標② 文化芸術・国際交流 × 活動・活躍の場**

**重点目標③ 情操教育・多文化共生 × 次代を担う子どもたち**



赤塚諏訪神社 田遊び

## (3) 各分野の基本目標

### 文化芸術基本目標

**“歴史と伝統が息づく文化芸術を楽しみ、創造する人をはぐくむ”**

区内の各地域が持つ文化や魅力を発掘しつつ、「絵本のまち」や光学・印刷などの産業分野、農業をルーツとする郷土芸能などの歴史ある伝統文化など、板橋ならではの文化を併せて発信し、区内外を問わず、誰もが文化芸術活動の主役になれるまちをめざします。

### 多文化共生基本目標

**“言葉や文化の違いを認め、心と心で触れあう人をはぐくむ”**

地域で暮らす外国人を、未来を担う仲間として考え、必要な情報をわかりやすく伝えたり、日本語を学習できる環境整備を行うことで、ともにこれからの板橋を創造していきます。



## (4) 各分野の個別目標

基本理念、各基本目標に基づき、以下の6つの個別目標を設定します。

### 文化芸術

- 1 板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける
- 2 伝統文化の営みを継承し、まだ見ぬ魅力を発見する
- 3 誰もが文化芸術活動を楽しみ、参加できる環境を整える

### 多文化共生

- 1 言葉の壁を感じることはないまちを実現する
- 2 誰もが安心・安全に暮らし、地域に愛着を持てる環境を整える
- 3 国際理解を促進し、多文化共生の担い手を育てる

それぞれの個別目標の達成に向けた取組について、以下の内容を後述していきます。



ボローニャ・ブックフェア in いたばし

## 2025年のあるべき姿

概ね5年後の区の文化芸術・多文化共生を見据え、「こうしたまちであってほしい」などのあるべき姿を示しています。

## 施策の方向性

2025年のあるべき姿を実現するために、どのような施策のあり方が望ましいか、方向性を示しています。

## 施策

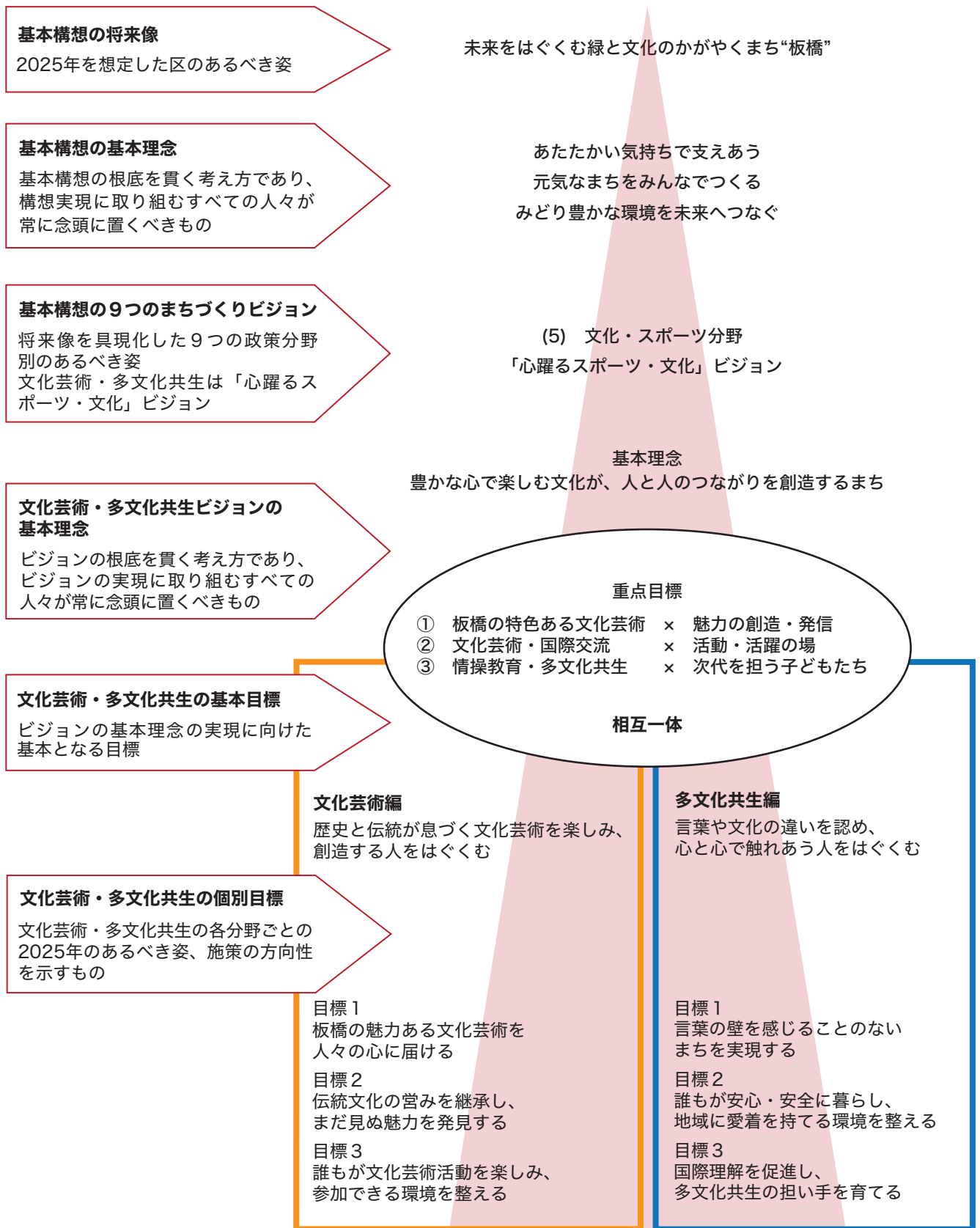
個別目標の達成に向け、13の施策を推進していきます（施策一覧は16ページに掲載しています）。

## 評価指標・進捗管理

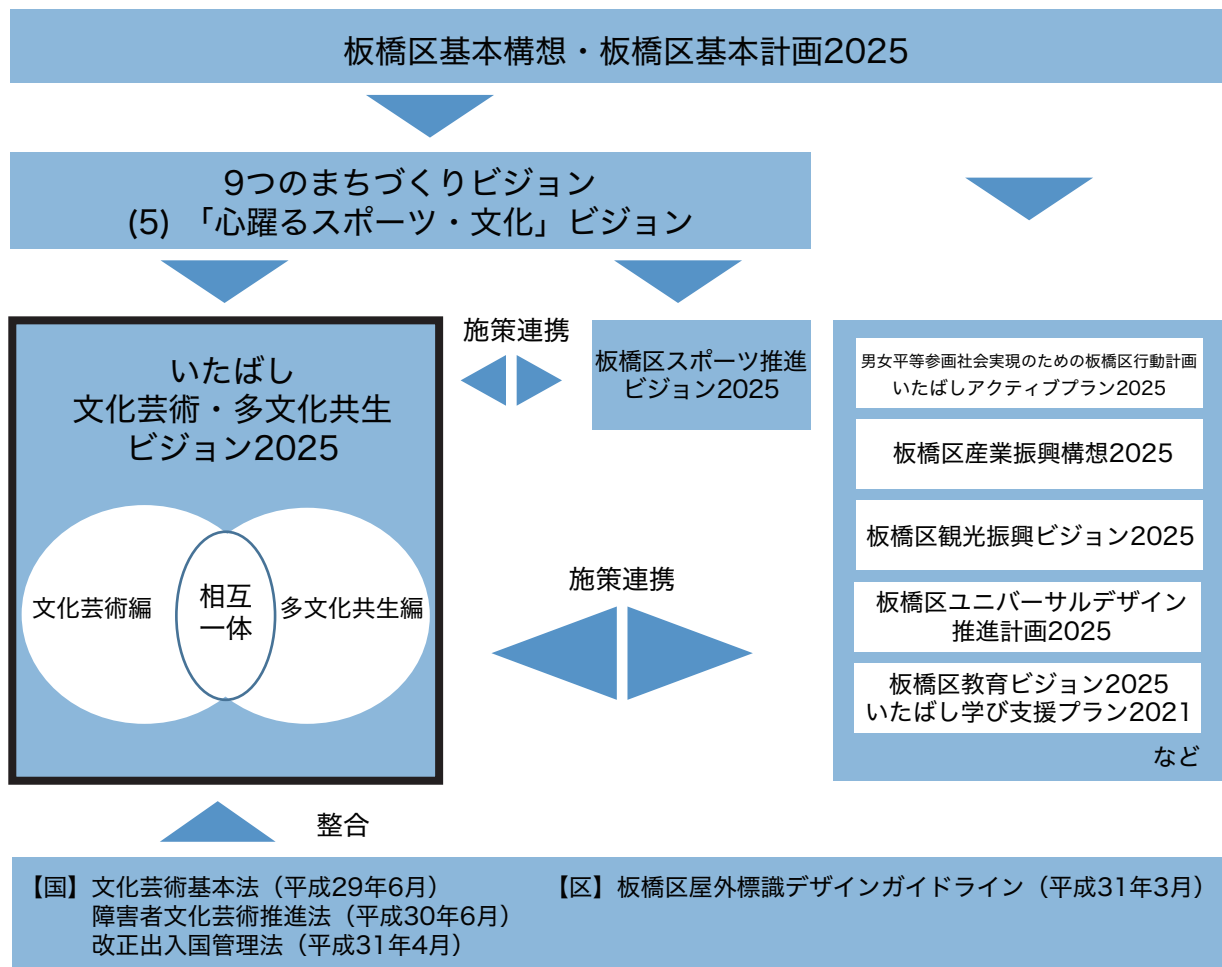
ビジョンの計画期間（令和7年度末まで）における評価指標を各分野で定め、目標達成に向けて計画的な施策の推進に取り組みます。

### 3 体系と関連計画

#### (1) 体系



## (2) 関連計画







カナダ・バーリントン市姉妹都市提携30周年記念 歓迎セレモニー

## 4 重点目標

### 重点目標①

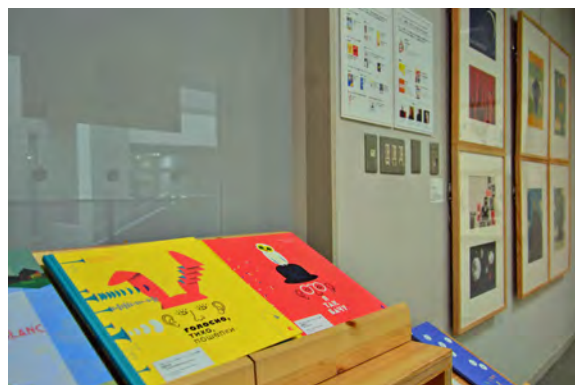
### 板橋の特色ある文化芸術 × 魅力の創造・発信

板橋区は、多様な人々が思い思いに文化芸術を楽しむ中で生まれた「絵本のまち」のような特色ある文化を持つ一方で、古今東西の優れた文化芸術を発信する拠点である美術館などの文化施設も存在しており、それらを活用したブランドづくりを推進していきます。

また、板橋とは異なる背景を持つ様々な都市と交流することを通して、それぞれの都市が持つ文化芸術の特性を吸収し、既存の文化と融合、昇華させながら、新たな価値の創造にも取り組んでいきます。

## 1 「絵本のまち」のブランド化

区施策に幅広く絵本を軸とした展開を図り、供給側である絵本作家などのクリエイターの育成や、区の特徴である印刷業を活用した絵本製作事業などに取り組みます。絵本という文化芸術が需要・供給・消費などを生み出すことを通して、「創造都市（Creative City）」<sup>注2</sup>の実現につなげていきます。



注2…グローバル化と知識情報経済化が急速に進んだ21世紀初頭にふさわしい都市のあり方の一つであり、文化芸術と産業経済との創造性に富んだ都市（創造都市ネットワーク日本ホームページ）

## 2 国内外から注目される文化芸術

美術館のリニューアルにより、展示環境が充実したことで国宝・重要文化財などの公開が可能となり、今までにない歴史的価値のある展示や、創造性豊かな展覧会の企画を推進していきます。また、国際交流事業の一つでもあるイタリア・ボローニャ国際絵本原画展や、国際的なアーティストとの連携により、国内外に誇れる魅力を創造・発信していきます。



## 3 都市交流を活かした板橋の文化の振興・魅力発信

海外姉妹友好都市などとの交流を通して、板橋の魅力ある伝統工芸や郷土芸能などの伝統文化を世界へ発信するとともに、各都市の優れた文化を板橋に取り入れていきます。また、各都市と板橋の魅力が融合した各種イベントや、東京2020大会で板橋区がホストタウンとなるイタリアとの交流などを推進していきます。







板橋区民文化祭「演劇のつどい」

## 重点目標②

### 文化芸術・国際交流 × 活動・活躍の場

文化芸術活動を行う人々の自由な表現を支えるとともに、多様な国際交流活動の輪を広げていくためには、拠点となる施設の整備や、活動の場の確保が重要になります。同時に、文化芸術活動・国際交流活動の担い手を支援しつつ、人々の活発な交流を促進していくことも欠かせません。

活動の場の確保と、そこで様々な活動を行う人々の支援とは密接に結びついており、それらを一体的に推進していくことで、区の文化芸術・多文化共生のさらなる発展に貢献していきます。

## 1 地域における文化芸術活動・国際交流活動支援の充実

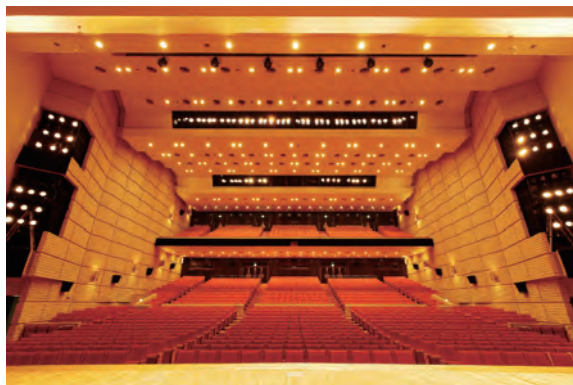
新たな取組であるアーティストバンクいたばし<sup>注3</sup>を活用し、区にゆかりのあるアーティストの発掘や活動の場を提供することで、文化芸術に親しむ機会を拡充します。様々な分野のアーティストがジャンルを超えて融合する新たな可能性を見出し、地域の文化芸術のつながりを構築していきます。また、地域で活動している日本語教室や外国人との交流事業、区と文化・国際交流財団との協働事業などを支援することで、継続的な国際交流活動を促進していきます。



注3…区にゆかりのある文化芸術家を発掘するとともに、アーティストの活動を広く発信する取組

## 2 文化芸術活動の拠点としての環境整備

優れた表現力を持つ世界的なアーティストの育成や、国際交流・多文化共生活動が活発に行われる環境をつくるためには、人材育成への支援、質の高い舞台鑑賞機会の提供、文化芸術・多文化共生活動にふさわしい場の充実などが必要です。特に文化会館・グリーンホールは文化芸術の発信拠点と位置づけしており、利用者の多様なニーズを的確に捉えつつ、ハード・ソフトの両面から環境整備に努めます。



## 3 文化・国際交流財団による組織強化と施設運営

文化・国際交流財団は、30年以上にわたり区の文化芸術・国際交流施策を担い、行政と区民の中間組織として、区内外の団体や専門家と連携し、協力関係を築いています。今以上に文化芸術の発掘・創造や担い手の育成を行うためには、組織強化に努め、専門性を高めていく必要があります。人員体制を整備し、文化会館・グリーンホールの運営を受託することで、事業と貸館業務を一体的に行い、拠点機能の強化や文化・国際交流財団の継続性を確保し、未来へ向けて途切れることなく文化芸術・国際交流活動への支援を行っていきます。







小学生美術体験教室

### 重点目標③

## 情操教育・多文化共生 × 次代を担う子どもたち

板橋の魅力を高め、「東京で一番住みたくなるまち」を実現していくためにも、将来の板橋を担う子どもたちの感性を豊かにし、教養を深めていく教育が欠かせません。乳幼児期の情操教育から学校教育に至るまで、多様な文化芸術に触れるとともに、自ら文化芸術活動を行う楽しさに気づいてもらうための取組が重要になります。

同時に、自分とは異なる文化や価値観を持つ人たちへの理解や、多文化共生の意識をはぐくむ取組も推進していきます。

## 1 児童・生徒を対象とした国際理解教育・日本語教育

東京2020大会を契機としたオリンピック・パラリンピック教育をはじめ、児童・生徒の多文化共生に対する意識啓発のために、文化・国際交流財団が外国人講師を派遣して行う国際理解教育を実施します。また、これらの取組をオンラインで実施するなど、デジタルトランスフォーメーション<sup>注4</sup>を活用し、新たな事業実施の手法についても検討していきます。

注4…デジタル技術の浸透がすべての人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させるという概念



## 2 児童・生徒を対象とした文化芸術鑑賞・活動

音楽・芸術・芸能などの活動者や区内の文化芸術団体などと協働し、学校や地域との連携により、子どもたちの文化芸術への興味や関心を高めるアウトリーチ事業（出張事業）などを行うとともに、学校教育の中でも、ICTを活用しながら、郷土芸能などに触れる機会を提供します。



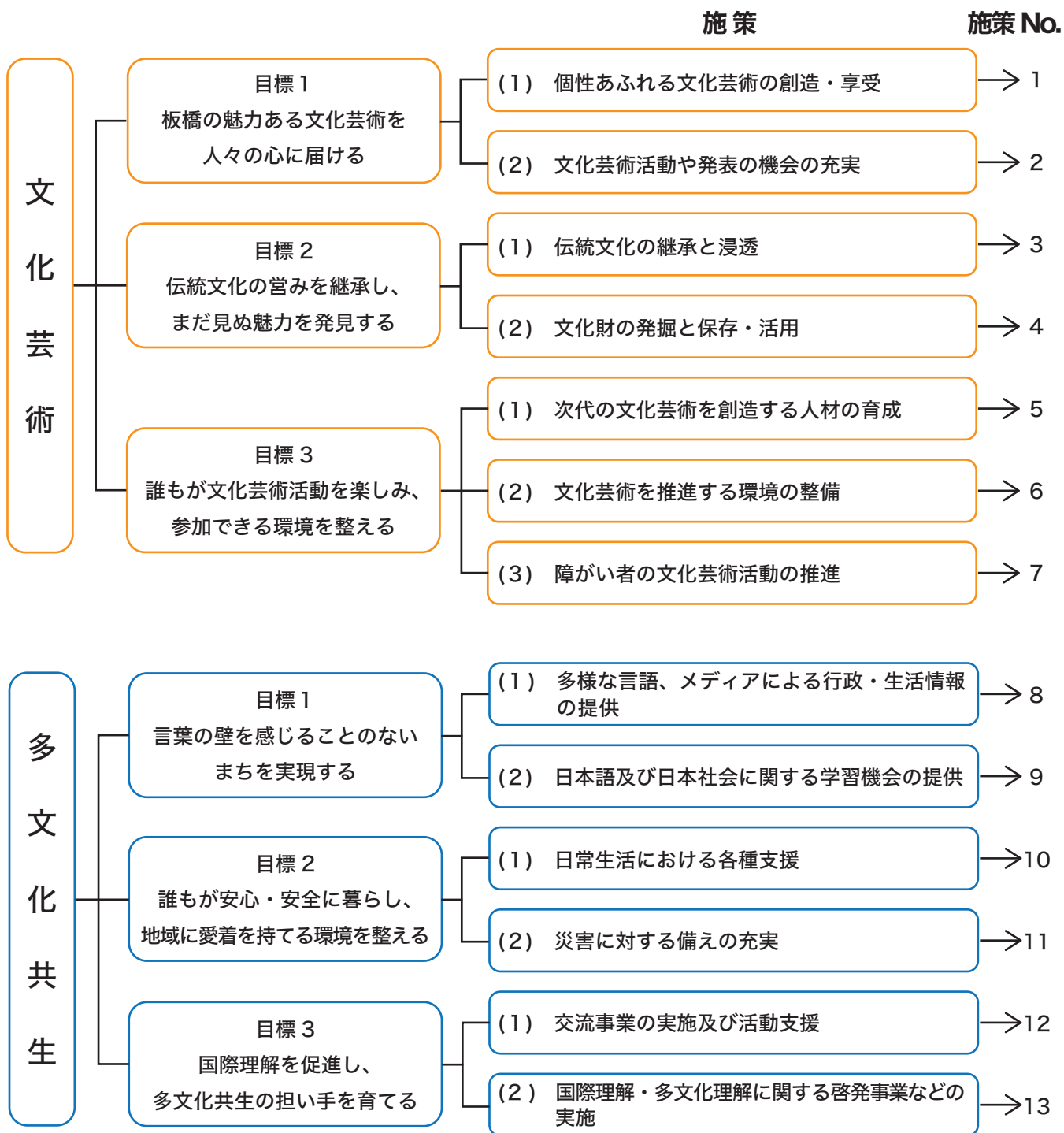
## 3 就学前の子どもたちを対象とした文化芸術鑑賞・活動

文化・国際交流財団が実施する0歳からを対象としたコンサートや、美術館での絵本作家・アーティスト・デザイナーによる造形遊びワークショップなど、乳幼児期における文化芸術体験を提供し、子どもの豊かな創造力や表現力をはぐくむとともに、子育て世代への支援を充実させます。子どもたちに文化芸術活動の楽しみを浸透させることで、板橋の文化芸術の裾野を広げていきます。





## 5 施策一覧



## 第 2 章



文化芸術編

# 文化芸術編

## 1 文化芸術の意義

- 区民の生活を豊かなものにする  
人々の生活や社会が多様化する中で、文化芸術活動は子どもから高齢者まで、区民の精神的な充足、生きがいをもたらし、区民の生活を豊かなものにします。
- 文化芸術による縁をはぐくむ地域社会をつくる  
文化芸術がつなぐ縁や文化芸術活動を通じたコミュニティの形成は、人々の支えとなり、生涯を通して生きがいを持てる地域社会づくりの一助となることが期待されます。
- まちの個性と魅力を高める  
文化芸術は、人の営みから生み出されるものであり、地域の個性に結びつくものです。文化芸術の薫り高い創造力あふれる地域は、他の地域の人をも惹きつけるようなまちとしての個性と魅力を高めます。

## 2 文化芸術の領域

ビジョンでは、文化芸術基本法を参考に、文化芸術の領域を歴史、伝統芸能、芸術、生活文化をはじめ、衣食住、娯楽、地域の産業や行事など、およそ人々の暮らしの中で創造される活動や様式を広く含める概念と捉えます。また、板橋区基本構想における2025年のあるべき姿として、「心躍るスポーツ・文化」ビジョンが位置づけられているほか、板橋区産業振興構想2025における将来像として「未来を輝かせる産業文化都市・いたばし」が定められています。さらには、板橋区観光振興ビジョン2025の基本目標においては、「歴史・文化がつなぐ板橋ストーリーをつくる」と掲げられていることから、スポーツや産業、観光も文化であるという視点も加え、文化芸術を検討します。

### 文化芸術基本法における文化芸術の例示

芸 術：文学、音楽、美術、写真、演劇、舞踊その他の芸術（メディア芸術を除く）

メディア芸術：映画、漫画、アニメーション及びコンピュータなどを利用した芸術

伝統芸能：雅楽、能楽、文楽、歌舞伎、組踊その他の我が国古来の伝統的な芸能

芸 能：講談、落語、浪曲、漫談、漫才、歌唱その他の芸能

生活文化：茶道、華道、書道、食文化その他の生活に係る文化

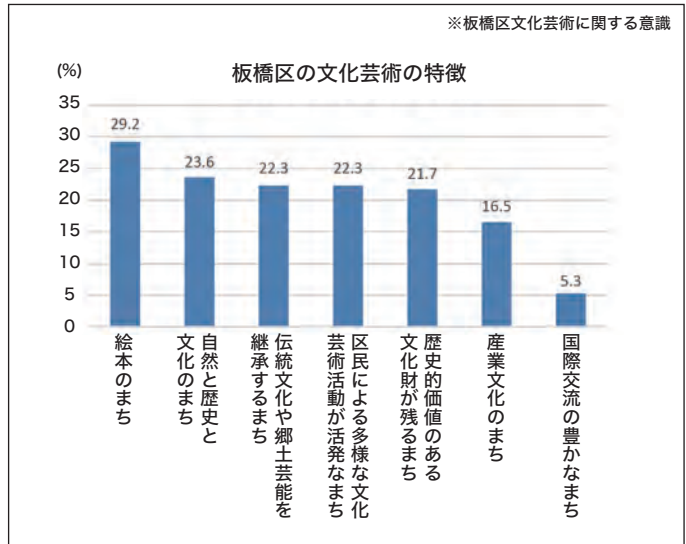
国民娯楽：囲碁、将棋その他の国民的娯楽

文化財等：有形及び無形の文化財並びにその保存技術

地域における文化芸術：伝統芸能、民俗芸能など

### 3 区の特性

区の地域特性として、古くから宿場町として人々が往来し、まちのにぎわいとともに文化が発展してきました。また、豊かな自然環境に恵まれたことで、様々な文化が生まれ、<sup>てがきゆうぜん</sup>手描友禅や<sup>えど</sup>江戸<sup>てがきちょうちん</sup>手描提灯などの伝統工芸、田遊びなどの郷土芸能、旧粕谷家住宅などの文化財をはじめとした地域の歴史を伝える文化が今でも伝承されています。近年では、新たな地域文化としての製造業・光学産業などのものづくりも特色となっています。



これらの地域特性を活かし、板橋区民まつり、いたばし花火大会、板橋Cityマラソン、板橋農業まつりなどのイベントや、文化の発信拠点である文化会館では板橋区民文化祭などの文化事業を行っています。また、美術館や郷土資料館、旧粕谷家住宅などの文化施設とともに歴史資源が多く分布する赤塚エリアでは、「自然と歴史と文化の里・赤塚」として地域連携の魅力発信を推進しています。中でも、美術館では、絵本原画展、江戸狩野派や池袋モンパルナスをはじめとする地域の個性あふれる展覧会を行っています。

同じく、加賀エリアにおいては、都内初の史跡公園整備や植村冒険館の東板橋体育館との複合化などにより、文化・産業・歴史の地として整備を進めています。

また、友好都市との国際交流を通した新たな価値や魅力の創出の一環として、新たに建設された中央図書館では、いたばしボローニャ絵本館を併設するとともに、ボローニャ市の街並みを象徴するポルティコをイメージしたギャラリーを設置しています。

### 4 位置づけ

ビジョンの理念を尊重し、施策の具体化を図るとともに、前計画の基本的な方向性を受け継ぎ、区の文化芸術の計画的な推進を図ります。

#### 文化芸術のコラム

～区が誇る文化芸術家～

板橋区在住の重要無形文化財保持者（人間国宝）である神田松鯉氏は、講談師として伝統的な技法を高度に体現し、長編連続物の復活・継承に積極的に取り組むなど、講談界に大きく貢献されています。





## 5 前計画における成果と課題

これまでの区の文化芸術施策について、区民や外部有識者などによる検討を行い、成果と課題を整理した結果、以下のようなことが考えられます。

### 前計画における主な成果

- 美術館の大規模改修工事完了に伴うリニューアルオープン  
国宝・重要文化財の公開許可を受けられる展示環境整備、ラウンジの設置、ユニバーサルデザイン<sup>注5</sup>の推進などを実施しました。
- 板橋区民文化祭・前夜祭による東京 2020 大会の機運醸成  
区内 25 の文化団体が集まった板橋区文化団体連合会により、2 か月間にわたって繰り広げられる板橋区民文化祭を平成 30 年度からは東京 2020 大会公認プログラムとして開催しました。
- 史跡公園整備  
板橋区加賀に広がっていた陸軍板橋火薬製造所は、日本最古級の官営工場であり、平成 29 (2017) 年 10 月に国史跡に指定されました。その跡地を近代化・産業遺産を保存・活用する都内初の史跡公園として整備を計画します。
- 旧粕谷家住宅の復元  
江戸時代中期に建てられた旧粕谷家住宅の解体・復元工事を平成 28 (2016) 年 1 月から開始しました。工事過程で享保 8 (1723) 年の墨書銘<sup>ぼくしよめい</sup>が発見され建立年代が確定し、関東地方では最古級に属する古民家としての文化財的価値が明らかとなり、東京都指定有形文化財に指定されました。地域の歴史や文化を伝承する体験施設として活用を予定しています。

注5…年齢、性別、国籍、個人の能力にかかわらず、一人ひとりの多様性が尊重され、あらゆる場面で社会参加ができる環境を整えること

### 前計画における主な課題

- 区民活動を支える環境整備  
文化芸術活動は区民が主体であり、区は区民活動を支える環境を整えることが重要です。そのためには、多様な文化芸術活動の情報を把握し、対応していくことが必要です。
- 新たな魅力の創出  
区内の魅力を分野横断的につなぐことで、新たな魅力を創造していくことが必要です。
- 文化芸術資源の活用と発掘  
区が所有する貴重な文化芸術資源で活用されていないものもあります。新たな文化資源を発掘するとともに、活用方法を検討することが必要です。

### ● ブランド化の推進

区の文化芸術資源を価値あるものとして展開し、ブランド化につなげる必要があります。  
また、ブランドイメージを定着させるためのストーリー性を有した発信も重要です。

### ● 文化芸術活動の場の創出

既存の文化施設だけでなく、公的空間や屋外施設、廃校など新たな活動の場の創出が求められています。若手芸術家からプロフェッショナルな方、区民が交流できる「場」が必要とされています。

### ● 有効な情報発信

文化会館は区の文化芸術の拠点であるとともに、区民に文化芸術に関する情報を届けるための発信拠点としても、活用を検討する必要があります。

### ● 文化芸術の担い手の支援

地域の芸術家や伝統工芸士などの活動や継承を支えていく必要があります。

### ● 文化芸術による情操教育の推進

文化芸術は心を豊かにはぐくむものであり、子どもたちの情操教育として、鑑賞の場や体験の場の充実が求められています。

### ● 障がい者の文化芸術活動の促進

障がい者が安心して文化芸術活動に参加できるためにも、情報発信や環境整備が必要です。

## 文化芸術のコラム

### ～板橋区混声合唱団～

昭和 54 年に音楽文化の向上をめざして区が結成・設立した合唱団です。定期演奏会や区内の福祉施設訪問など音楽文化の普及に努めています。



### ～板橋区吹奏楽団～

昭和 61 年に板橋区の吹奏楽団として発足し、音楽文化振興及び啓蒙を目的として、定期演奏会やポピュラーコンサート、区内商店会でのパレードなど幅広く活動しています。





板橋区民文化祭前夜祭「阿波おどり」

## 6 個別目標

### 文化芸術 目標1

## 板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける

### 2025 年のあるべき姿

板橋の歴史的・文化的ブランドを創造し、区民に浸透するとともに、その価値が交流都市をはじめ世界に発信されています。板橋区文化団体連合会や区にゆかりのあるアーティストをはじめ、様々な特色を持つ文化芸術を、区民が知り、楽しむことを通して、板橋が持つ文化の魅力を応援しています。

### 施策の方向性

板橋の各地域が持つそれぞれの特色を活かした文化芸術活動のみならず、区内で行われる多種多様な活動の魅力を発信していくことで、区のブランドイメージを向上していきます。また、国内外の友好交流都市との交流を通して、文化・観光事業と国際交流事業の連携を推進していきます。



## 施策・主な事業 ★は新規事業または事業の拡充を図るもの

### (1) 個性あふれる文化芸術の創造・享受

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展を代表とする絵本文化の醸成や、自然と歴史と文化が集積する赤塚エリアでの美術館・郷土資料館の個性あふれる展示事業など、区の個性を磨くとともに、さらなる魅力を創造します。

また、海外都市をはじめとする豊富な交流都市との文化交流を通して、文化の融合や連携を推進することで板橋の文化の発展や独自性の創造につなげます。



#### 美術館展示事業 ★

絵本原画展、江戸狩野派や池袋モンパルナスをはじめとする展覧会を開催  
世界初のインド・タラブックスを伝える展覧会やレオ・レオーニ展、さわる絵本など、魅力あふれる展示を企画・展開



#### ボローニャ・ブックフェア in いたばし

北イタリアのボローニャ市で開催する「ボローニャ児童図書展」に出展され、区に寄贈された世界各国の絵本を紹介  
ボローニャ・ラガッツィ賞<sup>注6</sup>受賞絵本などを展示

注6…ボローニャ国際児童図書展の出展作品で、作家やイラストレーター個人に贈られるのではなく、編集者や装丁者などを含めた総合的な作品として、本そのものに贈られる賞

### (2) 文化芸術活動や発表の機会の充実

区民や文化団体が主体的に文化芸術活動を展開できるように活動や発表の機会を充実させ、まちに活気やにぎわいを創出します。

また、区民参加事業を推進することで、区民の文化芸術活動の参加促進や交流機会を創出し、区民の生活に文化芸術活動の楽しみが浸透するよう取り組みます。



#### 板橋区民文化祭

2か月間にわたって開催する文化芸術事業  
板橋の地域文化のかがやきを象徴する文化芸術活動の発表と普及の場として開催



#### 板橋第九演奏会

プロの指揮者・ソリストとともに、区民合唱団として舞台に立つ機会を提供するフルオーケストラ演奏会を開催





赤塚城戦国絵巻武者行列

## 文化芸術 目標 2

# 伝統文化の営みを継承し、まだ見ぬ魅力を発見する

### 2025 年のあるべき姿

各地域の郷土芸能などの伝統文化や歴史・文化財を、区民が知り、自ら楽しむことを通して、板橋の文化芸術を応援しています。区民が自らの住む地域の新しい魅力に気づき、愛着を深めています。

### 施策の方向性

赤塚エリアの文化施設の魅力向上や連携推進、加賀エリアの文化・産業・歴史の地としての整備など、それぞれの地域が持つ資源を有効活用していきます。また、郷土芸能などの伝統文化の継承や認知度向上、地域文化の発掘・創造にも取り組みます。



## 施策・主な事業

### (1) 伝統文化の継承と浸透

板橋区の伝統文化は、区の歴史の様々な営みの中で創造され、継承されてきました。特に、地域の伝統文化について知識を深めることは、自らが住むまちに愛着や誇りを感じることに繋がります。そのため、伝統文化に関わる人材の発掘や育成、活動や発表の機会の充実、情報の提供や学習機会の拡充などに努め、伝統文化に対する区民の意識向上を推進します。



#### いたばしの郷土芸能

国指定の重要無形民俗文化財や区指定無形民俗文化財の保存団体と連携し、区内に伝承する郷土芸能の観賞機会を提供



#### 赤塚城戦国絵巻武者行列

区内在住の<sup>かつちゅうし</sup>甲冑師やいたばし武者行列保存会と連携し、侍の武装具の芸術的価値を発信するとともに、紙で手作りした鎧兜を着た子どもたちが参加し、歴史や文化芸術に親しむ機会を創出

### (2) 文化財の発掘と保存・活用

文化財は、それらが生み出された当時の生活や成り立ちを探る手がかりとなるなど、地域の個性と深く結びつき、地域の誇りとなる財産です。そのため、文化財の保存に努めるとともに、区民が指定・登録文化財をはじめ、多くの名所・旧跡などを知り、知識を学ぶことができる機会の充実に取り組みます。



#### 史跡公園整備 ★

国の史跡に指定された陸軍板橋火薬製造所跡が持つ歴史的価値を活かし、都内初となる近代化・産業遺産を保存・活用した史跡公園を整備



#### 文化財ふれあいウィーク

文化財の理解促進と保護・継承を目的として、一般公開されていない貴重な区指定・登録文化財などを公開・紹介



区立文化会館

### 文化芸術 目標 3

## 誰もが文化芸術活動を楽しみ、 参加できる環境を整える

### 2025 年のあるべき姿

文化会館を中心とした安心・安全に利用できるハード面の整備と、文化団体への支援、活動や発表の機会の創出などソフト面の充実により、年齢や性別、障がいの有無を問わず、誰でも文化芸術活動に参加できる環境が整っています。

### 施策の方向性

文化会館のサービス・施設を充実させることや、活動できる場所や機会を充実させることなどを通して、区民の文化芸術活動を支援していきます。同時に、子どもの豊かな創造力をはぐくむ教育や、障がい者の文化芸術活動を促進する環境整備など、多様性を尊重する取組を推進します。



## 施策・主な事業

### (1) 次代の文化芸術を創造する人材の育成

文化芸術は、子どもたちの心の豊かさや創造力、表現力をはぐくみます。また、次代の担い手である子どもたちが文化芸術に親しむことは、区の文化芸術の発展に資するものです。そのため、様々な分野で鑑賞や体験できる機会を創出し、子どもたちの文化芸術への興味・関心を高める取組を推進します。



#### アウトリーチ事業（出張事業）

区内小・中学校で音楽コンサートや落語などの公演を行い、子どもたちの身近に文化芸術を楽しむ機会を創出し、文化芸術の裾野を広げる取組として実施



#### ひよこ・たぬきアトリエ

3歳から小学生を対象に、絵本作家やデザイナーなど、様々なジャンルの講師による造形遊びワークショップを開催

### (2) 文化芸術を推進する環境の整備

区内の文化芸術イベントや区にゆかりのあるアーティストなどに関する多様な情報収集を行うとともに、伝わりやすい情報発信に取り組みます。

また、区の文化芸術への貢献に対する助成や顕彰による活動の活性化や、関係団体との連携による区内の文化芸術推進体制や環境の構築を推進します。



#### アーティストバンクいたばし ★

区にゆかりのあるアーティストの発掘や情報を発信することで、文化芸術活動の活性化や地域における交流を促進



#### 文化芸術活動振興助成・顕彰

区民の文化芸術活動を支援し、振興するため助成と顕彰を実施



### (3) 障がい者の文化芸術活動の推進

障がいの有無にかかわらず文化芸術活動に参加できる環境を整えることにより、誰もが文化芸術の鑑賞や創造することができる機会を充実させます。また、障がい者の文化芸術活動を通して、障がい者の個性と能力を発揮するきっかけとするとともに、地域交流の促進や相互理解などにより、地域共生社会の実現につなげていきます。



#### 障がい者週間記念行事

障がい者週間を記念し、各種事業や作品展示などを行い、障がい者の社会参加の場を広げるとともに地域におけるノーマライゼーション<sup>注7</sup>を普及・促進

#### 福祉施設における創作活動

区立福祉園において、創作活動の機会を提供するとともに、創作作品のブランド化及び商品販売を実施

注7…障がいの有無などにかかわらず、誰もが社会の一員として行動できる社会や環境の整備をめざす考え方

ビジョンでは、障害者文化芸術推進法の基本理念及び基本的施策を踏まえ、文化施設におけるユニバーサルデザインの推進、文化会館ホールの車いす席・難聴者席への配慮、文化会館ホームページにおける利用しやすい情報提供など、障がい者の文化芸術活動に関する施策を推進します。

#### 障害者文化芸術推進法について

##### 1 目的

文化芸術活動を通じた障害者の個性と能力の発揮及び社会参加の促進を図ることを目的としています。

##### 2 基本理念

障害者による文化芸術活動について、鑑賞・参加・創造の促進、地域での作品等の発表や交流等の促進、芸術上価値が高い作品等の創造支援などを基本理念としています。

##### 3 基本的施策

- |                       |                                  |
|-----------------------|----------------------------------|
| ①文化芸術の鑑賞の機会の拡大        | ⑦文化芸術活動を通じた交流の促進                 |
| ②文化芸術の創造の機会の拡大        | ⑧相談体制の整備等                        |
| ③文化芸術の作品等の発表の機会の確保    | ⑨人材の育成等                          |
| ④芸術上価値が高い作品等の評価等      | ⑩情報の収集等                          |
| ⑤権利保護の推進              | ⑪関係者（国・地方公共団体、関係団体、大学、産業界等）の連携協力 |
| ⑥芸術上価値が高い作品等の販売等に係る支援 |                                  |

## 文化芸術のコラム

### ～板橋区演奏家協会～

昭和 59 年に板橋区主宰のクラシック音楽オーディション合格者により設立された音楽家団体です。コンサートやアウトリーチ事業（出張事業）などを通して音楽観賞の機会を提供しています。



過去の公演より  
(C)Koichi Mizushima

### ～劇団ふぁんハウス～

障がいのある仲間たちとともに、区内を拠点に活動する劇団です。音声ガイドや聴覚障がい者への台本レンタル、劇場までのガイドヘルプなどの「バリアフリー観劇サポート」による公演を文化・国際交流財団と共催で行っています。



## 7 評価指標

今後5年間の計画期間（令和3年度から令和7年度末まで）における評価指標を定め、ビジョンの推進に取り組めます。

絵本文化の発信・醸成事業の参加者数			
目標値	令和3～7年度累計 62,000人	現状値	平成27～令和元年度累計 59,330人
取得方法	イタリア・ボローニャ国際絵本原画展観覧者数、ボローニャ・ブックフェア in いたばし観覧者数、いたばし国際絵本翻訳大賞の応募者数などの合計		
理由	絵本事業のにぎわいは、区の魅力である「絵本のまち」を浸透させ、文化芸術目標1「板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける」の実現につながると考えます。		

区民が過去1年間に文化芸術に触れた割合			
目標値	100%	現状値	79.9%
取得方法	区民意識意向調査		
理由	文化芸術に触れる機会が充実し、区民が文化芸術を楽しむことにより、文化芸術目標1「板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける」及び文化芸術目標3「誰もが文化芸術活動を楽しみ、参加できる環境を整える」の実現につながると考えます。		

区民が過去1年間に文化財に触れた割合			
目標値	15%	現状値	12.3%
取得方法	区民意識意向調査		
理由	文化財をはじめとする区の歴史・文化を、区民が知り、楽しむことは、文化芸術目標2「伝統文化の営みを継承し、まだ見ぬ魅力を発見する」の実現につながると考えます。		

文化会館大ホール・小ホール稼働率			
目標値	75%	現状値	69.1%
取得方法	年次報告書		
理由	文化会館をはじめとする文化施設の設備・サービスを充実させることは、区民の文化芸術活動の促進につながり、文化芸術目標1「板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける」及び文化芸術目標3「誰もが文化芸術活動を楽しみ、参加できる環境を整える」の実現につながると考えます。		

## 第3章



多文化共生編



# 多文化共生編

## 1 多文化共生の意義

### ● 定義

国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め合い、対等な関係を築こうとしながら、地域社会の構成員として共に生きていくこと。

（総務省「多文化共生の推進に関する研究会報告書」より）

### ● 多文化共生を推進する重要性

区は、多文化共生の社会に向けた取組を推進していくことにより、一人でも多くの区民に、異なる文化と触れあい、その違いについて考えるきっかけを提供していきます。

自分とは異なる考え方を持つ人々と接する中で、互いの思いを感じ、多様な交流や新しい活動が生まれていくことが、外国人、日本人という違いを超えて区民一人ひとりが暮らしやすいまちの実現へつながっていきます。

国際理解力を向上させ、多文化共生を推進していくことは、すべての人の人権を尊重するという意識が浸透し、差別や偏見のない社会をめざすことであり、安心で安全なまちづくりのためにも重要です。

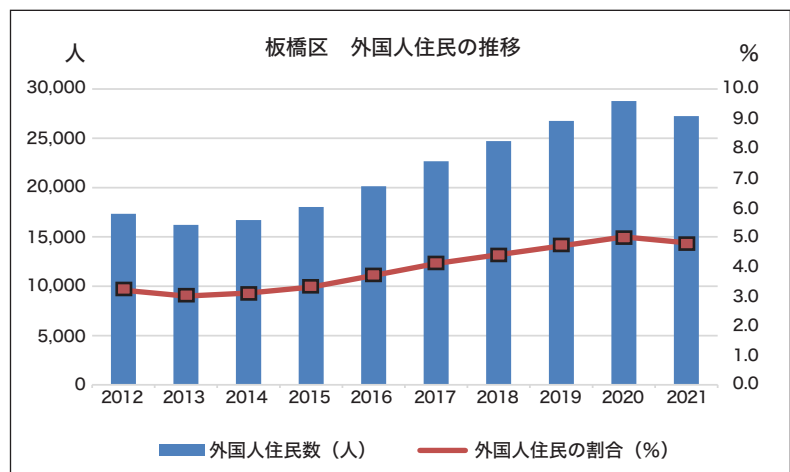
また、少子高齢化、人口減少、国際化の進む社会の中で、多文化共生の推進がこれまでにない新たな価値や活力の源になります。

## 2 区の現状

区における外国人住民数は、令和3（2021）年1月1日時点で27,254人で、板橋区総人口の約4.8%を占めており、平成28年（2016）年同期から7,107人と大幅に増加しています。

また、平成31（2019）年4月に施行された改正出入国管理法を踏まえると、新型コロナウイルス感染症の影響はありながらも、

毎年一定数の外国人の転入が想定されます。いかなる危機的状況においても、外国人に対して迅速かつ的確に情報を届けたり、オンライン対応などのこれまでとは異なる事業実施方法を検討するなど、新たな視点を踏まえて各施策を推進することで、多文化共生のまちづくりを進めていくことが求められています。



## 3 位置づけ

ビジョンの理念に基づき、施策の具体化を図るとともに、前計画の基本的な方向性を受け継ぎ、区の多文化共生の計画的な推進を図ります。



## 4 前計画における成果と課題

これまでの区の多文化共生施策について、区民や外部有識者などによる検討を行い、成果と課題を整理した結果、以下のようなことが考えられます。

### 前計画における主な成果

- 外国人への広報活動の体制整備

多言語リーフレットや観光いたばしガイドマップ、外国人向けガイドマップなどを多言語化で作成しました。また、街区表示板・案内板の多言語併記を行いました。

- 区ホームページの多言語化

区のホームページ上で、自動翻訳サービスを提供しました。

- 国際交流員・ボランティアの通訳・翻訳業務などの実施

国際交流員やボランティアによる庁舎窓口通訳や行政文書翻訳を実施し、また、庁舎窓口で電話機を介した三者間通訳の対応窓口を拡大しました。

- 日本語教室の開催

日本語を話せない外国人のために、日常生活を送るうえで基本となる初級レベルの日本語を学習する文化・国際交流財団主催の教室を開催しました。

- 外国人相談会の開催

日本語でうまく説明ができない外国人を対象に通訳を介し、弁護士や行政書士などの専門家に無料で相談できる外国人相談会を開催しました。

- 日本語学級へのサポート体制の整備

区立小・中学校に通う日本語能力が不十分な児童・生徒に対して、指導員や通訳ボランティアの派遣を行い、授業サポートを提供しました。

- 海外姉妹友好都市などとの区民交流の促進

海外姉妹友好都市への区民ツアーの派遣など、区が提携した都市との区民レベルの交流を促進する事業を実施しました。





## ●海外姉妹友好都市との文化交流

海外の姉妹友好都市が他区に比べて多い特徴を活かし、文化交流を推進しています。令和元年度はカナダ・バーリントン市との姉妹都市提携 30 周年記念事業を実施し、公式訪問団による相互訪問、市民区民レベルでの相互訪問、文化団体による文化交流など、相互理解に資する交流事業を実施しました。

## ●職員を対象にした多文化共生研修の実施

多文化共生に関する職員の意識啓発を行うために、研修を開催しました。

研修内容:やさしい日本語<sup>注8</sup>の知識とスキルを身に着け、外国人と適切なコミュニケーションを取る

注 8…普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語  
(2020 年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ホームページ)

## 前計画における主な課題

### ●やさしい日本語を含めた多言語対応の発展の必要性

外国人住民の国籍や言語の多様化に対応するため、やさしい日本語の活用・推進が求められます。また、行政における通訳・翻訳体制の強化を推進することも併せて必要です。

### ●日本の価値観やルールの周知徹底

外国人の子どもに対して、入学前オリエンテーションを行い、価値観や日本の文化習慣（学校生活のルール、挨拶、年間行事）などを事前に説明することが重要です。

### ●自助・共助の意識啓発

外国人住民も地域のコミュニティに関わってもらうことで、地域住民として自助・共助の役割を担えるよう意識啓発を行うことが重要です。併せて、災害時ネットワークの構築を行い、外国人がわかる言葉で情報を提供できる体制づくりが課題となります。







外国人のための日本語教室

## 5 個別目標

### 多文化共生 目標1

## 言葉の壁を感じることもないまちを実現する

### 2025 年のあるべき姿

日本語がわからない外国人の気持ちに寄り添い、生活する上で必要な情報を、適切に提供するという意識が区民に浸透しています。

外国人が日本語を学び、理解できる環境を整えることで、自分が暮らしている地域に愛着を持って生活しています。

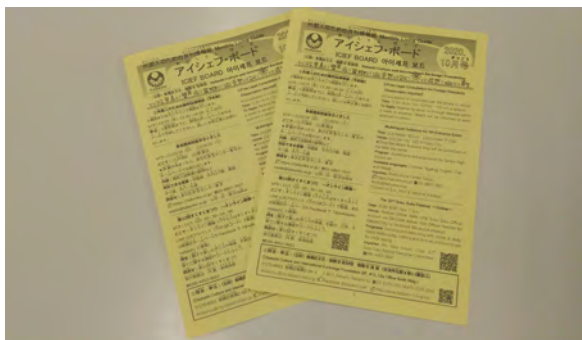
### 施策の方向性

外国人の日本語学習をサポートするボランティアの活動支援をするため、ボランティア同士の連携が取れる仕組みづくりや、やりがい・満足感を持って活動できる環境づくりに取り組みます。区内に住む外国人の誰もが、十分な学習ができる環境を整備します。

## (1) 多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供

区に住む外国人に情報が行き渡るよう、転入者を対象とした多言語の冊子「Welcome to いたばし」の配付や、行政情報及び多文化共生事業などを掲載した多言語の月刊誌「アイシェフ・ボード」の発行・配付などを行います。

また、日本語が十分に話せない方でも安心して行政手続きができるよう、パンフレットや関係書類をやさしい日本語や各種言語に翻訳したり、窓口での通訳を行ったり、外国人に必要な冊子を作成したりすることで、必要な方に情報を届けます。



### 外国人向け情報誌「アイシェフ・ボード」

区内に住む外国人に、行政情報や生活情報、イベント情報などを多言語で発信



### 施設表示の多言語化・ピクトグラム<sup>注9</sup>化★

公共施設の改修に合わせて、外国人にわかりやすく、安心して利用できるよう、案内表示の多言語化・ピクトグラム化を推進

注9…情報や注意を示すために表示される視覚記号(サイン)

## (2) 日本語及び日本社会に関する学習機会の提供

外国人の日本語学習を支援するため、目的や生活環境に合わせて受講しやすいよう、各種コースを設置した日本語教室を開催したり、教室を支える日本語ボランティアを養成するなど、ボランティアがやりがい・満足感を持って活動できる環境をつくります。

また、日本語での意思疎通が困難な子どもが区立学校に就学する際に、日本語を短期間で集中的に学ぶ講座を実施し、学校生活に早くなじめるように支援します。



### 日本語教室の開催

外国人のために、日常生活に必要な基礎的な日本語を学習する日本語教室を開催



### 外国人児童・生徒への日本語学習支援

日本語がわからない児童・生徒が学校生活に必要な日本語の基礎を学ぶ講座を実施





外国人留学生対象の防災訓練

## 多文化共生 目標 2

# 誰もが安心・安全に暮らし、 地域に愛着を持てる環境を整える

### 2025 年のあるべき姿

地域に暮らす外国人を、同じ地域に暮らす仲間として認識し、日常生活の中で、人種や言葉の壁を感じることなく、ともに力を合わせ、地域の課題を解決しています。

### 施策の方向性

地域に暮らす外国人が、日本人と同じ生活ができるよう、必要な情報をわかりやすい形で伝えるとともに、日常生活の困りごとなどを気軽に相談できる体制を構築します。

## 施策・主な事業

### (1) 日常生活における各種支援

生活に身近なリサイクルに関する情報や国民健康保険、福祉サービス、子育て支援サービスなどの案内を多言語化し、誰もが安心して暮らせる環境を言葉の面から整えたり、窓口で通訳を行い、安心して行政手続きが行えるよう支援します。

また、外国との制度や文化の違いから生じる問題に対応するため、外国人が母国語で弁護士などの専門家に相談できる機会を提供したり、様々な行政機関が提供する外国人相談をわかりやすく紹介することで、困っている方が気軽に相談できる体制を整えます。



#### 外国人相談会の開催

外国人が通訳を介して弁護士などの専門家に無料で相談できる相談会を開催



#### 日本語ボランティア養成講座

文化・国際交流財団主催の日本語教室で日本語を教えるために、ボランティアを養成する講座を実施

### (2) 災害に対する備えの充実

避難所などで日本語がわからない外国人の支援をするボランティアを養成し、災害に備えることに加え、外国人の防災訓練への参加を促進し、災害対応の意識を醸成します。

また、日頃から多言語での防災情報の提供を行い、SNS など様々な媒体を活用し、非常時に誰でも情報にアクセスしやすい環境を整えながら、外国人が災害時に自助・共助できるよう支援します。



#### 外国人の防災訓練への参加促進 ★

外国人の地域防災訓練への参加促進や、非常時における外国人の支援方法を学ぶ機会を提供



#### 多言語での防災情報の提供

外国人に防災意識を高めてもらうため、多言語での防災情報を提供





バーリントン市民訪問団書道体験（大東文化大学第一高等学校）

## 多文化共生 目標 3

# 国際理解を促進し、多文化共生の担い手を育てる

### 2025 年のあるべき姿

様々な国で暮らす人々と、区民との活発な交流を通して、異なる地域や文化で暮らす人々との相互理解が進み、世界平和を願う気持ちが、区民に広く浸透しています。

### 施策の方向性

海外姉妹友好都市や多くの国との交流を深め、より強い絆をはぐくむとともに、共通の課題解決や相互理解を促進し、新たな関係を構築していきます。

## 施策・主な事業

### (1) 交流事業の実施及び活動支援

様々な文化や価値観を理解し、違いを受け入れる多文化共生社会の担い手を育てるため、日本人に外国の文化を紹介する講座、外国人に日本の文化を紹介する講座、日本人と外国人が交流することを目的としたイベントなどを開催します。

また、文化芸術事業と横断的な連携を進め、外国人が日本の伝統文化に触れる機会や伝統文化を担う人々との交流を増やします。日本語がわからない外国人も含めて、誰もが文化芸術を楽しむ機会を提供します。



#### 海外姉妹友好都市などとの区民交流促進 ★

海外姉妹友好都市への区民ツアーの派遣や、国際感覚を身につけた人材育成のための中学生海外派遣事業など区民レベルの交流促進事業を実施



#### 日本語スピーチ大会

区内で日本語を学ぶ外国人が、日本語スピーチで日頃の学習の成果を発表

### (2) 国際理解・多文化理解に関する啓発事業などの実施

子どもの頃から多文化に触れ外国人と交流することを目的に、外国人を講師に迎え母国の文化を紹介する国際理解教育を小・中学校などで行います。母国と日本の架け橋になる人を増やし、日本人と外国人の交流を促進します。

また、ホームステイ・ホームビジットを通して、ホストファミリーと外国人が日常生活を共にし、交流する機会を提供します。外国人が地域社会に溶け込む第一歩を支援することで、社会参画を推進します。



#### 国際理解教育の授業の実施

区内の小・中学校に外国人講師を派遣し、外国の文化や習慣などを教える授業を実施



#### ホームステイ・ホームビジット

外国人が日本の文化や生活を体験できるよう、ホストファミリーを紹介し、区民・市民間の交流の促進を図る事業を実施



## 6 評価指標

今後5年間の計画期間（令和3年度から令和7年度末まで）における評価指標を定め、ビジョンの推進に取り組みます。

外国人の日本語学習機会の取得方法			
目標値	令和3～7年度累計 2,200人	現状値	315人※
取得方法	文化・国際交流財団主催の日本語教室の学習者数と、外国人児童・生徒のための日本語初期学習集中講座の受講者数の合計数		
理由	外国人が日本語を学習する機会を確保したり、外国人児童・生徒の学習を支援することで、日本語で困ることがなくなり、多文化共生目標1「言葉の壁を感じることをのこさないまちを実現する」につながると考えます。		

※取得方法のうち、日本語初期学習集中講座は令和元年度から実施している事業のため、現状値として集計可能な令和元年度の数値のみ掲載している。

多言語化・コミュニケーション支援事業の実施件数			
目標値	令和3～7年度累計 3,000件	現状値	平成27～令和元年度累計 2,315件
取得方法	行政手続きに関する区民向けの文書などを翻訳する事業と、区の窓口や学校などにおける通訳事業の2事業の実施件数		
理由	行政情報に母国語で触れることができたり、暮らしの中でのコミュニケーションの支援をすることで、多文化共生目標1「言葉の壁を感じることをのこさないまちを実現する」及び目標2「誰もが安心・安全に暮らし、地域に愛着を持てる環境を整える」の実現につながると考えます。		

過去1年間で外国人とコミュニケーションがあった区民の割合			
目標値	64.5%	現状値	59.5%
取得方法	区民意識意向調査		
理由	外国人とのコミュニケーションを行うことを通して、区民の多文化共生への意識が高まり、多文化共生目標3「国際理解を促進し、多文化共生の担い手を育てる」の実現につながると考えます。		



## 第4章



ビジョンの推進のために

## 1 推進体制

ビジョンを推進するためには、区の事業推進だけでなく、区民や関係団体・機関などの各主体が役割を理解し、連携しながら主体的に行動していくことが必要です。

そのために、各主体に期待される役割を示すとともに、それぞれが特性や役割を理解し、考え方を共有することで、文化芸術振興及び多文化共生推進に向けた各主体間の連携や協働を推進します。

## 2 各主体に期待される役割

### ●区

文化芸術の基盤づくりとして、区民一人ひとりが主体的に文化芸術活動を行うための参加促進や環境整備を進めます。また、多文化共生まちづくりにおいては、進行管理を担いつつ、先導役を務めます。

### ●区教育委員会

文化芸術に関する学習などを通して、子どもたちが豊かな感性や創造性、文化芸術を愛する心をはぐくむことが期待されます。また、外国人の子どもの学習機会を確保するために、日本語教育や日常生活のサポートを行うとともに、国際理解の促進に資する教育が期待されます。

### ●区民

区民は文化芸術活動の担い手として、創意を生かした自主的かつ創造的な文化芸術活動に努めることが期待されます。また、多文化共生まちづくりにおいては、国籍や民族などの異なる人々と地域社会の仲間としてともに暮らすために、各種行事や区との協働などを通して、交流やつながりを構築することが期待されます。

### ●公益財団法人 板橋区文化・国際交流財団

区民や芸術家の文化芸術活動を支援する団体として、文化芸術振興及び多文化共生推進を効果的かつ計画的に推進していくことが期待されます。文化芸術分野においては、独自の文化芸術施策を推進するとともに、クリエイターやアーティストなどとのつながりをつくりつつ、文化芸術の裾野を広げる役割を担います。また、多文化共生分野では、ボランティアなどと協働し、様々な事業を展開することにより、区民レベルでの国際交流や多文化共生の推進が期待されます。

### ●関係団体など

各団体独自の自主的な活動に加え、区や文化・国際交流財団とともに文化芸術及び多文化共生事業を推進し、現場と区や文化・国際交流財団との橋渡し役を担うことが期待されます。特に、板橋区文化団体連合会は、区民文化の振興や、海外交流都市との文化交流など、区内外において重要な役割を担うことが期待されます。

## 第5章



社会情勢への対応と新たな取組



## ■いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025は SDGsの8つのゴールの達成に貢献します

持続可能な開発目標（SDGs）とは、平成27（2015）年9月の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」にて記載された、令和12（2030）年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上に「誰一人取り残さない（leave no one behind）」ことを誓っています。



## ■新型コロナウイルス感染症への対応など 持続可能な社会の実現に向けた新たな取組

昨今の情勢に鑑みると、感染症の流行や自然災害など、区民の生活を揺るがす危機は常に身近に存在しています。そのような状況下では、文化芸術活動を継続していくことが困難であったり、日本の生活文化や風習に不慣れな外国人の日常生活が脅かされるなどの課題が浮かび上がります。

この課題に対応し、区では今後以下のような取組を推進します。

### 「新しい日常」<sup>注10</sup>に対応した 文化芸術活動の場を創出

物理的空間にとらわれず、インターネットなどを活用した文化芸術活動を推進します。コンサートや演劇公演、ワークショップ動画の配信などはデジタルトランスフォーメーションの一環として、文化芸術における「新たな表現の場」となり、これまで以上に文化芸術を身近に感じ、触れるきっかけとなります。

また、直接文化芸術を体感する機会も不可欠であることから、持続可能な文化芸術活動として、多様な場の確保が重要であり、文化施設以外の公的空間や屋外施設などの活用も併せて検討していきます。

注 10 …新型コロナウイルス感染症を乗り越えていくために、暮らしや働く場での感染拡大を防止する習慣



自宅で学ぶ古典芸能「板橋おんらいん寄席」



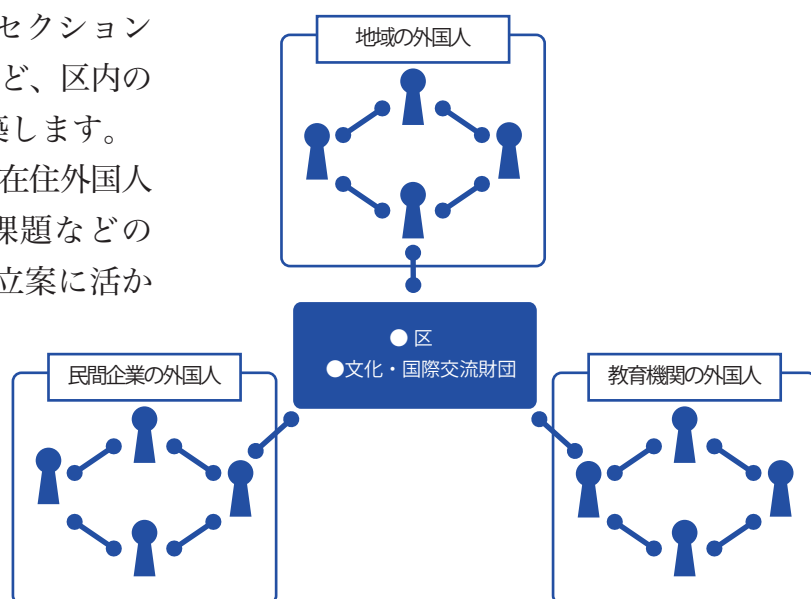
アーティスト支援のための動画配信

## 外国人ネットワークの構築と情報発信力の強化

大学などの教育機関や民間企業など各セクションで活動する外国人、地域に暮らす外国人など、区内の外国人をつなぐネットワークを新たに構築します。

区や文化・国際交流財団がハブとなり、在住外国人が日常生活の中で直面する困難や地域課題などの情報を収集し、そこから得た知見を施策立案に活かしていきます。

さらに、外国人への情報発信は、区が直接情報を発信するのみならず、日本語によるコミュニケーションが可能な外国人を起点として、幅広い外国人の方々に情報が伝わるネットワークづくりを推進します。



区、文化・国際交流財団がハブの役割を担う外国人ネットワークづくりの例

## 策定経過

開催年月日	会議名称	主な審議事項
令和元年 7 月 30 日	庁議（経営戦略会議）	・ 策定方針
8 月 27 日	区民環境委員会	・ 策定方針
令和 2 年 2 月 18 日	区民環境委員会	・ 区民意識意向調査の概要報告
3 月 4 日～ 3 月 11 日	第 1 回 板橋区文化芸術・多文化共生庁内調整会議（電子会議）※	・ 検討の進め方
3 月 25 日	第 1 回 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会	・ 委嘱状伝達式 ・ 検討の進め方
6 月 1 日	第 1 回 多文化共生部会	・ テーマ検討 （1）板橋区の特色ある国際交流 （2）日本語教育とやさしい日本語・多言語対応
6 月 3 日	第 1 回 文化芸術部会	・ テーマ検討 （1）板橋区の特色ある文化芸術 （2）文化芸術活動の場
6 月 24 日	第 2 回 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会	・ 部会中間報告 ・ 報告書の構成案
7 月 7 日	第 2 回 文化芸術部会	・ テーマ検討 （3）文化芸術にかかる情操教育 （4）障がい者の文化芸術推進
7 月 7 日～ 7 月 13 日	第 2 回 板橋区文化芸術・多文化共生庁内調整会議（電子会議）※	・ 検討会中間報告 ・ ビジョン骨子案
7 月 10 日	第 2 回 多文化共生部会	・ テーマ検討 （3）国際理解教育・多文化理解 （4）地域における外国人との共生と災害対策
7 月 28 日	庁議（連絡調整会議）	・ 検討会中間報告 ・ ビジョン骨子案
8 月 3 日～ 8 月 13 日	第 3 回 文化芸術部会（書面会議）※	・ 文化芸術部会のまとめ
	第 3 回 多文化共生部会（書面会議）※	・ 多文化共生部会のまとめ
8 月 25 日	区民環境委員会	・ 検討会中間報告 ・ ビジョン骨子案
9 月 2 日	第 3 回 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会	・ 検討会報告書原案
9 月 11 日	第 3 回 板橋区文化芸術・多文化共生庁内調整会議	・ 検討会の報告 ・ ビジョン素案
10 月 20 日	庁議（連絡調整会議）	・ ビジョン素案
11 月 10 日	区民環境委員会	・ ビジョン素案 ・ ビジョン資料編
11 月 14 日～ 11 月 30 日	パブリックコメント	
12 月 17 日～ 12 月 24 日	第 4 回 板橋区文化芸術・多文化共生庁内調整会議（電子会議）※	・ ビジョン原案 ・ ビジョン資料編 ・ ビジョン概要版
令和 3 年 1 月 26 日	庁議（連絡調整会議）	
2 月 12 日	教育委員会	
2 月 16 日	区民環境委員会	

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、電子会議及び書面会議とした



いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025

編集 板橋区区民文化部文化・国際交流課

〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号

TEL 03-3579-2018 FAX 03-3579-2046

kb-bk-kanri@city.itabashi.tokyo.jp

令和 年 月発行

刊行物番号 XX-XXX



板橋区 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号 URL <https://www.city.itabashi.tokyo.jp/>



# いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025 資料編



板橋区





## 目 次

1	板橋区文化芸術振興基本計画2020の主な成果と進捗状況 .....	1
2	板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020の主な成果と進捗状況 .....	6
3	板橋区文化芸術・多文化共生に関する区民意識調査概要 .....	10
4	いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会報告書概要 .....	14
5	関連事業一覧 .....	39
6	いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会設置要綱 .....	44
7	いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会・部会委員 .....	45
8	いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会・部会検討経過 .....	46
9	東京都板橋区文化芸術振興基本条例 .....	47

## はじめに

区は、平成23(2011)年3月に「板橋区文化芸術振興ビジョン(板橋区第二次文化芸術振興基本計画)」を策定し、文化芸術振興の取組を行ってきました。平成27(2015)年までの計画期間における取組は、「板橋区文化芸術振興基本計画2020」において振り返りを行っています。

このたび、「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」を策定するにあたり、「板橋区文化芸術振興ビジョン」「板橋区文化芸術振興基本計画2020」「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」の取組について、次の通り総括します。

### 1 板橋区文化芸術振興基本計画2020の主な成果と進捗状況

区は、平成28(2016)年3月に「板橋区文化芸術振興基本計画2020」を策定し、「歴史や伝統を大切にしながら、多様な文化芸術活動が活発に行われ、楽しみ、つながり、創造するまち」の実現に向けて、4つの施策の柱、11の基本施策のもとに55の計画事業を進めてきました。また、基本施策のうち3つを重点目標として取り組みました。本項では、施策の柱ごとに、主な成果をまとめています。

#### ■施策の柱1 文化芸術の風おこし

「個性あふれる文化芸術の創造」「文化芸術へいざなう機会の充実」「文化芸術活動を行う場の充実」「文化芸術活動の発表の機会の充実」の4つの基本施策を推進し、特に、「個性あふれる文化芸術の創造」を重点目標として取り組みました。

#### 「自然と歴史と文化の里・赤塚」における文化芸術事業の推進

板橋十景の一つ赤塚溜池公園周辺の一角を占める美術館と郷土資料館では、「自然と歴史と文化の里・赤塚」として多様な展示事業などを実施しています。令和元年度には両館合わせて28の展示などの事業を実施し、延べ6万人を超える観覧者でにぎわいました。

美術館は令和元(2019)年6月に大規模改修工事を完了し、リニューアルオープン・開館40周年記念「2019イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」では、観覧者数10,558人を記録しました。また、令和2(2020)年1月には郷土資料館の展示再整備を完了し、3月には周辺駅からの屋外案内標識を一新するなど、周辺施設の回遊を促す赤塚地域の魅力スタンプラリーやシェアサイクルの開始と相まって、さらなる魅力発信に取り組んでいます。



リニューアルオープンした美術館



## 「文化芸術月間」の事業展開

10・11月を「文化芸術月間」として、文化芸術事業を集中的に展開し、にぎわいを創出しました。

特に、2か月間にわたって繰り上げられる板橋区民文化祭は、板橋の地域文化のかがやきを象徴するものです。板橋区民文化祭の知名度向上と参加者・観覧者増加をめざし、平成28年度から文化会館で前夜祭を開催しています。

前夜祭では、板橋区文化団体連合会に加盟する団体が集結し、子どもから大人まで、板橋の地域文化を楽しむことができる催しを披露しています。また、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会(以下「東京2020大会」という)の公認プログラムとしても実施しており、今後さらに魅力を発信していきます。



板橋区民文化祭・前夜祭

## 絵本文化の発信・醸成

イタリア・ボローニャ国際絵本原画展に代表される絵本関連の美術館展覧会、図書館でのボローニャ・ブックフェアinいたばしの開催、また令和2年度に新たに開館する区立中央図書館にはいたばしボローニャ絵本館を併設するなど、「絵本のまち」として、世界の絵本の魅力を発信します。

そのほかにも区の基本構想や各種計画書の表紙のほか、結婚記念カードや育児パッケージ目録などにおいて「絵本のまち」をイメージさせるデザインを取り入れるなど、絵本文化の発信・醸成に取り組んでいます。



ボローニャ・ブックフェアinいたばし

## 海外姉妹友好都市との文化交流

海外姉妹友好都市が他区に比べて多い特徴を活かし、文化交流に取り組んでいます。令和元年度はカナダ・バーリントン市との姉妹都市提携30周年記念事業、令和2年度はイタリア・ボローニャ市との友好都市交流協定締結15周年事業を実施し、公式訪問団による相互訪問や様々なイベントなどを通して、相互理解と交流を深めました。記念事業として、青少年ホームステイツアーや、区役所1階イベントスクエアでの展示のほか、区役所内レストランで海外姉妹友好都市をイメージした日替わりメニューの提供などを実施しました。今後、東京2020大会を契機として、海外姉妹友好都市との連携を図り、さらなる交流を推進していきます。



イタリア・ボローニャ市友好都市協定締結15周年記念事業

## ■施策の柱2 歴史文化の記憶つむぎ

「伝統文化の継承」「文化財の保存と活用」の2つの基本施策を推進し、特に、「伝統文化の継承」を重点目標として取り組みました。

### 初夏・秋の日本庭園など

水車公園内の日本庭園・茶室「徳水亭」において、初夏は華道、秋は茶道を主とした講習会・華道展・茶会・屋外コンサートなどを開催しているほか、夏休みにはこども華道・茶道体験講座を開催するなど、日本古来の文化に親しむ機会を提供しました。

このほか、板橋区民文化祭では茶会・いけ花展をはじめ、俳句、書道、百人一首、珠算などにおいて、子どもたちへの文化継承に取り組んでいます。



こども華道・茶道体験講座

### 歴史的価値ある建造物などの継承

江戸時代中期に建てられた旧粕谷家住宅は、平成28(2016)年1月から解体・復元工事を開始し、平成30(2018)年1月に完成しました。工事過程において、享保8(1723)年の**墨書銘**<sup>ぼくしょめい</sup>が発見され、**建立年代が確定し、関東地方では最古級に属する古民家として文化財的価値が明らかとなりました。**この結果を受け、**建立時の姿を再現し、平成30(2018)年3月には東京都指定有形文化財に指定されました。**今後、地域の歴史や文化を伝承する体験施設として、並びに区内の伝統工芸や郷土芸能の披露の場として、講座や見学会など新たな事業を推進していきます。

また、加賀に広がっていた陸軍板橋火薬製造所は、日本最古級の官営工場であり、その跡地において、近代化・産業遺産を保存・活用する都内初の史跡公園の整備を計画しています。完成すれば、文化振興、観光振興における新たなシンボルとしての役割が期待されます。



旧粕谷家住宅



史跡公園のイメージ図

## ■施策の柱3 文化芸術の人そだて

「次代の文化芸術を創造する人材の育成」「文化芸術を育てる担い手の育成」の2つの基本施策を推進しました。

### アウトリーチ事業（出張事業）の推進

小・中学校や福祉施設において文化芸術に触れる機会を提供するため、公益財団法人板橋区文化・国際交流財団（以下、「文化・国際交流財団」という）ではアウトリーチ事業を実施しています。文化・国際交流財団が毎年実施している新進音楽家オーディションに合格された方々を中心に結成されてきた板橋区演奏家協会や、板橋区混声合唱団、板橋落語会などの協力のもと、平成30年度は21か所、観客数3,845人と順調に事業を推進しています。アウトリーチ事業は、文化芸術に関わる人材発掘に寄与するとともに、文化団体の活動成果の発表や団体情報の発信などの役割も担っています。



小学校でのアウトリーチ事業

### ひよこ・たぬきアトリエ

3歳から小学生を対象に、親子で楽しく造形遊びを行うワークショップを実施しています。絵本作家やアーティスト、デザイナーなど様々なジャンルで活躍する講師陣が魅力です。次代の文化芸術の担い手である子どもたちが芸術家と接することは貴重な経験であり、感性を刺激する事業となっています。令和元年度は全10回、参加者数268人の実績となりました。



ひよこ・たぬきアトリエ

## ■施策の柱4 文化芸術の土づくり

「多様な文化芸術情報の収集と発信」「文化芸術活動を支える財政支援の充実」「文化芸術振興の推進体制の充実」の3つの基本施策を推進し、特に、「多様な文化芸術情報の収集と発信」を重点目標として取り組みました。

### 文化・国際交流財団情報誌「ふれあい」の発行

文化・国際交流財団が隔月で発行している文化芸術情報誌「ふれあい」の紙面構成を平成29年度から一新し、文化・国際交流財団と文化会館指定管理者が協力して、見やすく魅力的な情報発信に取り組んでいます。また、文化・国際交流財団、文化会館指定管理者とともにSNSでも積極的に情報を発信しています。多様な文化芸術情報を手軽に入手できるよう、引き続き効果的な情報発信の方法を研究し、改善に努めていきます。



文化・国際交流財団情報誌「ふれあい」



# 板橋区文化芸術振興基本計画2020における計画事業の達成状況

★は重点目標

めざす 将来像	施策の柱	基本施策	進捗状況		
			達成	未達成	合計
歴史や伝統を大切にしながら、多様な文化芸術活動が活発に行われ、楽しみ、つなぎ、創造するまち	文化芸術の風おこし	個性あふれる文化芸術の創造 ★	6	0	6
		文化芸術へいざなう機会の充実	8	0	8
		文化芸術活動を行う場の充実	3	0	3
		文化芸術活動の発表の機会の充実	5	0	5
	歴史文化の記憶つむぎ	伝統文化の継承 ★	10	0	10
		文化財の保存と活用	6	0	6
	文化芸術の人そだて	次代の文化芸術を創造する人材の育成	7	0	7
		文化芸術を育てる担い手の育成	4	0	4
	文化芸術の土づくり	多様な文化芸術情報の収集と発信 ★	3	0	3
		文化芸術活動を支える財政支援の充実	1	0	1
		文化芸術振興の推進体制の充実	2	0	2
	合計		55	0	55

## 評価指標における進捗状況

評価指標	計画策定時	現状値	目標値
文化会館の施設稼働率(大ホール・小ホール)	64.1% (平成26年度)	67.5% (令和元年度)	70.0%
過去1年の間に文化芸術に触れた区民の割合	—	79.9% (令和元年度)	100.0%
区の伝統芸能における認知度	37.3% (平成26年度)	31.9% (令和元年度)	50.0%
文化芸術振興イベント参加者数 ※	236,331人 (平成26年度)	222,198人 (令和元年度)	250,000人

※「文化芸術月間」の事業展開、サムライ文化と芸術の世界、アウトリーチ事業(出張事業)の推進の3計画事業における参加者数の合計

- 文化会館の施設稼働率(大ホール・小ホール)は、平成29年度実績で72.8%と目標値を達成し、過去最高を記録しました。令和元年度では67.5%と目標値を切りましたが、計画策定時以降高い水準を保っており、一定の成果を上げています。
- 過去1年の間に文化芸術に触れた区民の割合は、隔年で実施している区民意識調査の結果であり、令和元年度調査では79.9%となっております。文化芸術に触れる機会の創出に一定の成果を上げています。
- 今後は文化会館の老朽化対策と併せて、地域文化の創造支援と国際交流の推進を担う文化・国際交流財団が指定管理者として文化会館の管理運営を担えるよう改革を進めていくことが主な課題として挙げられます。

## 2 板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020の主な成果と進捗状況

区は、平成28(2016)年に「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」を策定し、『『もてなしの心』で言葉や文化のちがいを認め合い、外国人とともに暮らすふれあいと活力のあるまち『板橋』の実現に向けて、3つの施策の柱、11の施策のもとに49の計画事業を進めてきました。また、「東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催を踏まえた施策の展開」「多言語化対応の更なる充実」「多文化共生まちづくり推進のための人づくり」の3つを重点目標として取り組みました。本項では、施策の柱ごとに、主な成果をまとめています。

### ■施策の柱1 コミュニケーション支援

「多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供」「外国人にもわかりやすいサインの表示」「日本語及び日本社会に関する学習機会の提供」の3つの施策を推進しました。

#### 多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供

多言語での観光ガイドマップ作成に加え、平成30年度に英語、中国語、韓国語、仏語に対応した板橋区観光アプリ「ITA-マニア」をリリースしました。

文化・国際交流財団のSNS、ホームページ、外国人向け情報誌「アイシェフ・ボード」においても情報を多言語で発信しています。また、窓口に来庁する外国人の増加に対応するため、電話通訳対応窓口を拡大しました。



観光アプリ「ITA-マニア」

#### 外国人にもわかりやすいサインの表示

区では、公共施設の改築・改修などに併せて施設内案内板の多言語化を進めています。平成30年度には、「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定したほか、文化会館の館内・館外サインの多言語化とピクトグラム表示を行いました。令和元年度には、美術館リニューアルと小豆沢体育館プールの整備に伴い、館内サインの多言語化とピクトグラム表示及び周辺の屋外案内標識の多言語化を行いました。また、道路標識の英語化については、2か年で実施予定であったところを平成30年度の1か年で完了しました。今後、新たな中央図書館周辺におけるサインの多言語化を予定しています。



文化会館の館内サイン

#### 日本語及び日本社会に関する学習機会の提供

文化・国際交流財団では、初級日本語教室を実施しています。令和元年度には、これまでの2コースにおいてカリキュラムの見直しを行ったほか、新たに水曜会話サロンを開始しました。日本語ボランティア教師の養成と質の向上に取り組んでいるほか、区内で開かれているボランティア日本語教室への支援も行っています。



水曜会話サロン

## 施策の柱2 生活支援

「日常生活における各種支援」「子育て・教育支援サービスの利用促進」「日本語の学習支援」「多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進」「災害に対する備えの充実」の5つの施策を推進しました。

### 日本語の学習支援

外国人児童・生徒への日本語学習初期支援については、小学校3校、中学校2校で日本語学級(通級)を設置しているほか、日本語適応指導員(中国語)、ことば支援員を派遣しています。

さらに、令和元年度からは、日本語での意思疎通が困難な児童・生徒が区立学校に就学するにあたり、学校生活に必要な最低限の日本語の基礎を習得し、学校生活に早期に適応できるよう、日本語を短期間で集中的に学ぶ「日本語あいうえお初期学習集中講座」を開催しました。今後も、外国人児童・生徒数の増加傾向を踏まえ、対策の充実を検討していきます。



日本語学習初期支援事業

### 多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進

文化・国際交流財団では、あいキッズや小・中学校へ、外国の文化や習慣を紹介するボランティアを派遣し、国際理解教育の推進に取り組んでいます。東京2020大会を見据え、派遣回数は増加傾向にあります。外国人ボランティア講師に加え、JICA(青年海外協力隊)からも講師を派遣することで、より多くの回数を実施することができ、紹介する国・地域の種類も広げることができています(派遣回数:平成28年度10回→令和元年度23回)。

また、小・中学校及び幼稚園において、日本の文化や世界各国の言語・文化・歴史などを学び、世界の多様性や様々な価値観について理解を深めるオリンピック・パラリンピック教育も行っています。



国際理解教育

### 災害に対する備えの充実

区、文化・国際交流財団、大東文化大学、志村消防署が連携して、外国人留学生を対象とした防災訓練を実施しています。初期消火、AED、起震車などの体験型の防災訓練を行うとともに、多言語による防災マップ、救急カード、防災ガイドブックなどを併せて配付し、地震などの災害に対する備えや防災意識を啓発しています。また、英語・中国語・韓国語の通訳ボランティアも配置しています。区内6大学にも参加を呼びかけ、さらに事業の充実を図っています。防災訓練で配付する資料は、文化・国際交流財団のホームページに掲載することで、より多くの外国人が防災情報を得られるよう努めています。



外国人留学生を対象とした防災訓練



## ■施策の柱3 多文化共生の人づくり

「啓発・交流事業の実施及び活動支援」「多文化共生意識の醸成」「外国人の社会参画推進」の3つの施策を推進しました。

### 姉妹都市などとの区民交流の促進

区では、平成30年度に海外姉妹友好都市5つを紹介するイベントを行いました。来場者がメッセージを書くことで各都市にメッセージを発信できるコーナーを設け、区民と海外姉妹友好都市との交流を促進しました。また、会場の様子をGoogleストリートビューにて公開し、来場できない方や海外姉妹友好都市の方も、会場の雰囲気を味わうことができるよう取り組みました。

文化・国際交流財団では、海外姉妹友好都市との周年事業に合わせて、区民交流事業を実施しています。令和元年度はカナダ・バーリントン市青少年ホームステイツアーを行い、区内の15～23歳の青少年10名がバーリントン市で6泊8日のホームステイを実施し、ホストファミリーとの交流や英語研修、学生ミュージカルへの挑戦などを行いました。青少年の友好交流の輪を広げ、多文化共生を担う人材の育成を推進しています。また、カナダ文化を紹介するワークショップや講座を実施し、区民が外国文化に触れあえる機会を提供しました。



海外姉妹友好都市紹介イベント



バーリントン市青少年ホームステイツアー

### ホームステイ・ホームビジットの実施

文化・国際交流財団は、ホームステイのほかに、気軽に日本の家庭と交流できるよう、区内在住留学生が宿泊なしで家庭を訪問するホームビジットも行っています。平成30年度は34名の留学生・20世帯のホストファミリーが参加しました。令和元年度は、カナダ・バーリントン市姉妹都市提携30周年記念で区を訪れた市民訪問団16名（うちホームビジット1名・ホームステイ8名）の受け入れを行い、区内案内などを行いました。

今後も、ホームステイ・ホームビジットを通して、地域の交流を促進し、多文化共生のまちづくりを推進します。



ホストファミリーと阿波踊りを踊る  
バーリントン市民

### 多文化共生意識の醸成

外国人と大学生がともにまちを歩き、区の魅力を再発見したり、大学と連携して区民と職員がともに多文化や英語を学ぶ講座を開催するなど、東京2020大会に向けて、MOTENASHIプロジェクトを推進し、もてなしの心の醸成に取り組んでいます。令和元年度は、新たにやさしい日本語をテーマとした職員研修を実施し、職員の多文化共生意識の醸成にも積極的に取り組んでいます。



やさしい日本語をテーマとした職員研修

## 板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020における計画事業の達成状況

めざす 将来像	施策の柱	施策項目	進捗状況		
			達成	未達成	合計
外国人とともに暮らすふれあいと活力のあるまち「板橋」 「もてなしの心」で言葉や文化のちがいを認め合い、	コミュニケーション 支援	多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供	9	0	9
		外国人にもわかりやすいサインの表示	4	0	4
		日本語及び日本社会に関する学習機会の提供	3	0	3
	生活支援	日常生活における各種支援	9	0	9
		子育て・教育支援サービスの利用促進	4	0	4
		日本語の学習支援	3	0	3
		多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進	2	0	2
		災害に対する備えの充実	3	0	3
	多文化共生の 人づくり	啓発・交流事業の実施及び活動支援	4	0	4
		多文化共生意識の醸成	5	0	5
		外国人の社会参画推進	3	0	3
合計			49	0	49

## 評価指標における進捗状況

評価指標	計画策定時	現状値	目標値
過去1年間で外国人とコミュニケーションがあった区民の割合	36.5% (平成26年度)	59.5% (令和元年度)	41.0%
多文化共生推進イベント参加者数 ※1	2,575人 (平成23～26年度累計) (平均644人／年)	1,772人 (平成28～令和元年度累計) (平均443人／年)	3,300人 (平成28～令和2年度累計) (平均660人／年)
区設置サインのユニバーサルデザイン化 実施の割合 ※2	—	66.7% (令和元年度)	100%

※1 多文化紹介シリーズ、外国人による日本語スピーチ大会、国際交流サロン

※2 区施設6か所(文化会館、グリーンホール、美術館、小豆沢プール、東板橋体育館、中央図書館)  
屋外案内サイン3か所(小豆沢周辺屋内案内標識など)

○過去1年間で外国人とコミュニケーションがあった区民の割合は増加し、目標値を上回りました。外国人住民が増加傾向にある中、様々な国際交流事業を通して、多文化共生を推進してきた一定の成果が上がっています。

○区施設内サインの多言語化は、文化会館、グリーンホール、美術館、小豆沢プールについて実施したほか、今後の改築・大規模改修に併せて計画的に実施していきます。また、屋外案内標識は平成30年度に「板橋区屋外案内標識デザインガイドライン」を策定し、東京2020大会を契機として整備を推進しています。

○外国人住民の増加に伴い、通訳・翻訳の需要増大への対応のほか、日本語教育のさらなる充実、やさしい日本語の使用、地域における交流促進と災害対策などが今後の課題となっています。

### 3 板橋区文化芸術・多文化共生に関する区民意識調査概要

区の文化芸術と多文化共生を推進するいたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025の策定にあたり、区民の意識や意向などを広く把握し、基礎資料とすることを目的に調査を実施しました。調査結果の詳細については、別冊「板橋区文化芸術に関する意識調査報告書」及び「板橋区多文化共生に関する意識調査報告書」をご覧ください。

#### (1) 調査実施概要

##### ①文化芸術に関する調査

	区民	区内中学生	区外住民
調査対象	18歳以上2,000人	区内中学2年生681人	都内他区18歳以上600人
抽出方法	住民基本台帳無作為抽出	区内5地域各1校選出	調査受託者外部モニター
調査方法	郵送配付、郵送回収	学校を通じて配付、回収	WEB依頼及び回答
調査期間	9月20日～10月15日	9月25日～10月15日	11月23日～11月24日
回収結果	有効回収数:699票 有効回収率:35.0%	有効回収数:625票 有効回収率:91.8%	有効回収数:600票 有効回収率:100.0%

##### ②多文化共生に関する調査

	外国人区民	日本人区民
調査対象	18歳以上外国籍区民3,000人	18歳以上日本国籍区民2,000人
抽出方法	住民基本台帳無作為抽出	
調査方法	郵送配付、郵送回収	
調査期間	9月20日～10月15日	
回収結果	有効回収数738票(有効回収率25.1%)	有効回収数785票(有効回収率39.4%)

#### (2) 調査項目

文化芸術に関する調査	①属性(性別、年齢、国籍、居住地域など) ②自身の文化芸術に関する行動について ③区内の歴史文化資源について ④文化芸術の情報入手について ⑤区の文化芸術振興に関する取組について	区民 (全28問)
		区内中学生 (全18問)
		区外住民 (全12問)
多文化共生に関する調査	①属性(性別、年齢、国籍、在留資格など) ②生活情報について ③ことばについて ④地域での生活や活動について ⑤災害など緊急時の対応について ⑥子育てや教育について ⑦地域の外国人との共生について ⑧区が多文化共生に関する取組について	外国人区民 (全48問)
		日本人区民 (全31問)



### (3) 調査結果概要

#### ①文化芸術に関する調査・主な項目

設問	区民	区内中学生
1年間の文化芸術鑑賞状況	1位:映画 (49.1%) 2位:美術 (36.9%) 3位:ポピュラー音楽 (26.3%) ※鑑賞率 75.8%	1位:映画 (69.9%) 2位:美術 (24.2%) 3位:クラシック音楽 (20.0%) ※鑑賞率 81.6%
文化芸術鑑賞をしなかった理由	1位:仕事や家事、育児が忙しい (28.0%) 2位:興味・関心がない (20.7%) 3位:テレビやインターネット鑑賞 (17.7%)	1位:興味・関心がない (41.3%) 2位:勉強や部活、習い事が忙しい (39.4%) 3位:行きたい公演等がない (21.1%)
区に実施してほしい公演等	1位:国内外の優れた公演等 (48.5%) 2位:伝統芸能・郷土芸能 (22.6%) 3位:身近な場所での公演等 (22.5%)	1位:身近な場所での公演等 (18.4%) 2位:国内外の優れた公演等 (14.9%) 3位:親子やファミリーで楽しめる公演等(14.4%)
1年間の文化芸術活動状況	1位:生活文化 (11.9%) 2位:美術 (9.7%) 3位:クラシック音楽 (6.9%) ※活動実施率 30.7%	1位:クラシック音楽 (17.4%) 2位:美術 (13.4%) 3位:生活文化 (10.7%) ※活動実施率 38.4%
文化芸術活動をしなかった理由	1位:きっかけがない (36.0%) 2位:仕事や家事、育児が忙しい (31.0%) 3位:興味・関心がない (19.2%)	1位:興味・関心がない (43.8%) 2位:きっかけがない (38.9%) 3位:勉強や部活、習い事が忙しい (38.4%)
区の伝統芸能・郷土芸能の認知度	1位:田遊び (23.9%) 2位:獅子舞 (12.3%) 3位:祭り囃子 (7.2%) ※認知度 31.9%	1位:獅子舞 (44.5%) 2位:田遊び (24.8%) 3位:祭り囃子 (10.9%) ※認知度 61.8%
区の文化財の認知度	1位:志村一里塚 (51.9%) 2位:板橋 (51.4%) 3位:縁切榎(41.9%) ※認知度 74.5%	1位:志村一里塚 (25.6%) 2位:板橋 (25.1%) 3位:伝統工芸 (9.4%) ※認知度 48.0%
文化芸術に関する情報の入手方法	1位:広報いたばし (52.6%) 2位:ポスターや看板、車内広告 (29.5%) 3位:インターネット (25.2%)	—
区の文化の特徴を表現しているもの	1位:絵本のまち (29.2%) 2位:自然と歴史と文化のまち (23.6%) 3位:文化芸術活動が活発なまち (22.3%) 3位:伝統文化等を継承するまち (22.3%)	1位:自然と歴史と文化のまち (27.0%) 2位:伝統文化等を継承するまち (22.7%) 3位:文化芸術活動が活発なまち(22.6%)

設問	区民		区内中学生
文化施設の 訪問度・ 満足度	訪問 度	1位:区立文化会館 (62.1%) 2位:区立図書館 (57.6%) 3位:グリーンホール (45.5%)	1位:区立図書館 (58.1%) 2位:区立文化会館 (51.2%) 3位:区立美術館 (36.6%)
	満 足 度	1位:区立文化会館 (71.9%) 2位:区立図書館 (70.0%) 3位:区立美術館 (68.5%)	1位:区立文化会館 (82.5%) 2位:いたばしホローニヤ子ども絵本館 (79.7%) 3位:区立図書館 (79.6%)
文化施設が 利用される ために重要 なこと	1位:情報をわかりやすく提供等 (59.1%) 2位:誰もが気軽にくつろげる空間 (58.5%) 3位:板橋ならではの文化に触れる (18.2%)		1位:誰もが気軽にくつろげる空間 (54.7%) 2位:多言語等ユニバーサルデザイン推進 (28.0%) 3位:情報をわかりやすく提供等 (27.7%)
子どもの文 化芸術活動 に必要な取 組	1位:子ども参加・体験型事業 (62.1%) 2位:学校での文化芸術教育充実(43.6%) 3位:子ども対象の鑑賞機会充実(43.5%)		1位:子ども参加・体験型事業 (53.3%) 2位:学校へのアーティスト派遣 (27.2%) 3位:学校での文化芸術教育充実 (24.6%)
区における 文化芸術施 策の満足度	1位:個性あふれる文化芸術の創造 (29.1%) 2位:伝統文化の継承 (28.9%) 3位:多様な文化芸術情報の収集発信 (25.9%)		—
今後区が重 点的に取り 組むべきこ と	1位:伝統文化の保存・継承・周知 (52.4%) 2位:子ども等の文化芸術機会 (50.6%) 3位:板橋らしい文化芸術創造支援 (29.8%) 3位:文化芸術情報を区外発信 (29.8%)		—

設問	区外住民
1年間の文化 芸術鑑賞状況	1位:映画 (38.3%) 2位:美術 (23.3%) 3位:ポピュラー音楽 (15.5%) ※鑑賞率 59.8%
1年間の文化 芸術活動状況	1位 ポピュラー音楽 (5.2%) 2位 美術 (5.0%) 3位 生活文化 (4.5%) ※活動実施率 18.8%
「文化的なま ち」として魅力 あるもの	1位:自然と歴史と文化のまち (30.0%) 2位:歴史的価値のある文化財が残るまち (29.7%) 3位:伝統文化や郷土芸能を継承するまち (25.7%)
地域の文化芸 術を盛んにす るために必要 なこと	1位:伝統文化を保存・継承・周知 (36.8%) 2位:その地域らしい個性ある文化芸術活動の創造・支援 (28.8%) 3位:子どもや若者が文化芸術に触れる機会を充実させる (28.2%)

## ②多文化共生に関する調査・主な項目

設問	外国人区民	日本人区民
住みやすさ /定住	住みやすい(95.0%) 区内に住み続けたい(87.9%)	住みやすい(92.5%) 区内に住み続けたい(87.9%)
地域のつき あい	あいさつする程度までの日本人がいる (60.2%)	あいさつする程度までの外国人がいる (23.7%)
日本での生 活で困りご と、心配ごと	1位:健康保険・年金・税金など(38.5%) 2位:病院・医療(24.7%) 3位:災害・緊急時対応(23.7%)	1位:ゴミの出し方等生活ルール(70.3%) 2位:災害・緊急時対応(60.6%) 3位:行政情報の日本語の難しさ(55.9%)
外国人の 災害対策	1位:多言語マニュアル・マップ配付(45.3%) 2位:多言語情報伝達体制(36.2%) 3位:インターネット・SNS発信(30.9%)	1位:多言語マニュアル・マップ配付(62.0%) 2位:多言語情報伝達体制(45.1%) 3位:インターネット・SNS発信(33.2%)
子育て・教 育に関する 困りごと等	<保育所等に通う子どもがいる方> 1位:自国の言語・文化(56.4%) 2位:子育て・教育費用(49.3%) 3位:相談先がわからない(32.4%)	<15歳以下の子どもがいる方> 外国人が増えることの子育て・教育への影響 1位:多様な価値観を受容(80.8%) 2位:連絡がうまく伝わらない(72.6%) 3位:保護者同士の連携が不安(67.1%)
多文化共生 事業の認知 度	1位:日本語教室(21.7%) 2位:転入者へのWelcomeバック(13.7%) 3位:多言語リーフレット(11.1%)	1位:海外友好都市との交流事業(24.2%) 2位:公共施設・標識等多言語化(13.4%) 3位:区役所窓口での通訳対応(10.4%)
海外都市と の交流に期 待すること	1位:文化交流(60.7%) 2位:国際平和(44.0%) 3位:青少年・教育交流(33.7%)	1位:文化交流(60.9%) 2位:国際平和(50.8%) 3位:青少年・教育交流(41.9%)
日本人がし た方がよい と思うこと/ 望むこと	1位:外国の文化・生活習慣理解(26.7%) 2位:日本語・日本の習慣紹介(18.7%) 3位:日頃から外国人住民と会話(15.9%)	1位:外国の文化・生活習慣理解(30.7%) 2位:日頃から外国人住民と会話(23.2%) 3位:日本語・日本の習慣紹介(16.1%)
多文化共生 施策の満足 度	1位:施設・案内サイン等多言語化(50.0%) 2位:やさしい日本語の使用(46.6%) 3位:行政文書の多言語化(46.2%)	1位:施設案内サイン等多言語化(23.0%) 2位:やさしい日本語の使用(14.8%) 3位:行政文書の多言語化(12.4%)
今後重点的 に取り組む べき施策	1位:災害や緊急時対応(24.1%) 2位:日本人との交流機会創出(23.6%) 3位:日本人の外国文化への理解(22.9%)	1位:災害や緊急時対応(43.8%) 2位:外国人の子どもへの日本語教育(34.4%) 3位:外国人との交流機会創出(31.8%)



#### 4 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会報告書概要

「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」の策定にあたり、区民公募委員や学識経験者、関係団体などから意見や助言・知見などを得るため、いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会を設置しました。報告書の詳細については、別冊「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会報告書」をご覧ください。

#### はじめに

文化芸術は人間が人間らしく生活していくために欠くことのできない重要な活動であり、その根底には「表現の自由」を礎とした、誰もが創造し、享受することができる権利があります。文化芸術の持つ創造性は、人々の暮らしに彩りを加え、ゆとりを持った心豊かな社会を作り上げていきます。

生活形態、価値観の多様化などが進む近年では、誰もがお互いを理解し、尊重し合う姿勢をはぐくんでいくことも必要な要素となっています。

この両視点を踏まえ、今後、板橋区における文化芸術・多文化共生社会の実現を推進していくための土壌を形成するために、「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会」「文化芸術部会」「多文化共生部会」が設置され、議論を重ねてまいりました。

会長を拝命させていただいてから、短い期間ではありましたが、全3回の検討会、各3回ずつの部会の開催を経て、様々な分野の学識経験者、関係団体、区民の方々と意見を取り交わし、大変有意義な時間を過ごすことができました。その詳細を本報告書に記します。

検討会を進めるにあたっては、板橋区がこれまで行ってきた文化芸術や多文化共生の施策を振り返り、様々な視点からの意見がありました。板橋区がかねてから力を入れてきた文化芸術施策や、伝統の歴史と今、国際交流や地域社会における共生のあり方などの従前からの議論に加え、新たなトピックスであるSDGsの推進やコロナ禍における「新たな生活様式」への行動変容を含めています。残念ながら、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会は開催が延期となりましたが、伝統と創造、災害時の円滑な情報提供など、新たな課題が生まれた特異な時期であると考えています。

報告書においては、文化芸術の持つ社会包摂機能を起点とし、多文化共生を包含した理念を検討したうえで、板橋区として今後どう進めていくべきかを文化芸術・多文化共生の両面、板橋区の持つ特色としての「絵本」というキーワードの活用を提示させていただきました。さらには、それぞれの取組を類型化し、具体化していくことで、この報告書に詰まった思いが区民へ浸透し、また、これに関わる全ての人と同じ思いを胸に活動を行うことで、板橋区が2025年にめざす姿を実現するものと期待しています。

文末になりましたが、本検討会及び部会に携わった方々に厚く御礼申し上げるとともに、本報告書が「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」の策定の中核となり、板橋区が「東京で一番住みたくなるまち」となるための一助となることを祈念いたします。

いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会  
会長 岡田 匡令

## I 概要

### (1) いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会について

令和2年3月25日いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会設置要綱に基づき、いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会(以下「検討会」という。)が設置され、板橋区長から下記の事項について委嘱されました。

#### <設置趣旨>

東京都板橋区文化芸術振興基本条例(平成17年板橋区条例第29号)第3条第2項に基づく文化芸術の振興に関する基本的な計画と多文化共生の推進にかかる基本計画を一つのビジョンとして策定するにあたり、区民や団体、専門家などから意見や助言・知見などを得るため、いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会を設置する。

#### <所掌事項>

- 文化芸術及び多文化共生のビジョンに関すること
- 文化芸術の振興及び多文化共生の推進にかかる施策の方向性に関すること

### (2) 検討の視点

- ・区民意識調査の結果などを踏まえ、区民公募委員や学識経験者、地域・関係団体などの意見に基づき検討します。
- ・文化芸術・多文化共生の各分野において、前計画の進捗状況や国の動き、社会の変化などを踏まえて課題を整理し、2025年のあるべき姿や、施策の方向性を検討します。

## II 板橋区の文化芸術について

### (1) 板橋区文化芸術振興基本計画2020

「板橋区文化芸術振興基本計画2020」では、4つの施策の柱(「文化芸術の風おこし」「歴史文化の記憶つむぎ」「文化芸術の人そだて」「文化芸術の土づくり」)を中心に計画を推進しました。なお、「板橋区文化芸術振興基本計画2020」の施策の柱は、以下の通りです。

表1

めざす将来像	施策の柱	基本施策	分類
歴史や伝統を大切にしながら、多様な文化芸術活動が行われ、楽しみ、つなぎ、創造するまち	①文化芸術の風おこし	個性あふれる文化芸術の創造	風おこしー1
		文化芸術へいざなう機会の充実	風おこしー2
		文化芸術活動を行う場の充実	風おこしー3
		文化芸術活動の発表の機会の充実	風おこしー4
	②歴史文化の記憶つむぎ	伝統文化の継承	記憶つむぎー1
		文化財の保存と活用	記憶つむぎー2
	③文化芸術の人そだて	次代の文化芸術を創造する人材の育成	人そだてー1
		文化芸術を育てる担い手の育成	人そだてー2
	④文化芸術の土づくり	多様な文化芸術情報の収集と発信	土づくりー1
		文化芸術活動を支える財政支援の充実	土づくりー2
		文化芸術振興の推進体制の充実	土づくりー3

※表の中の「分類」は、P17～22に記載する一覧表の「分類」に対応しています

## (2) 文化芸術を取り巻く環境の変化など

「板橋区文化芸術振興基本計画2020」を推進する一方、国における新たな法律の制定や法改正、社会情勢や区内の新たな動向など、文化芸術を取り巻く環境が大きく変化しています。

### <国及び社会情勢の動向>

- 東京2020大会の開催決定
- 改正文化芸術基本法(平成29年6月)
- 文化芸術推進基本計画(平成30年6月)
- 障害者による文化芸術活動の推進に関する法律(平成30年6月)
- 障害者による文化芸術活動の推進に関する基本的な計画(平成31年3月)
- SDGsの推進

### <板橋区の動向>

- 陸軍板橋火薬製造所跡が国史跡に指定され史跡公園の整備構想・基本計画策定
- 区立美術館の大規模改修工事完了に伴うリニューアルオープン
- 郷土資料館の展示再整備
- 板橋区手話言語条例制定

## (3) 板橋区文化芸術振興基本計画2020の評価・課題など

このような状況に照らし、「板橋区文化芸術振興基本計画2020」を推進する中で、区が認識している残された課題や、新たな課題には、主に下記のようなものがあります。

### <残された課題>

- 文化芸術の拠点である文化会館を取り巻く課題
  - ・老朽化対策(昭和57年開館)と特定天井対策
  - ・大山駅東地区周辺施設の配置検討

### <新たな課題>

- 国際交流、観光、教育など関連分野における施策連携(改正文化芸術基本法)
- 障がい者が円滑に文化芸術活動を行なえる環境整備(障害者による文化芸術活動の推進に関する法律)
- 文化会館の指定管理者と文化・国際交流財団の文化事業重複

なお、「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」を検討するにあたり、文化芸術部会を設置しました。環境の変化などを踏まえ、文化芸術部会においても、前計画に関する評価を行うとともに、課題整理や意見交換を行いました。

文化芸術部会の開催にあたり、議論の整理を行うために、検討のテーマを下記の4つに分類しました。

- テーマ1 板橋区の特色ある文化芸術
- テーマ2 文化芸術活動の場
- テーマ3 文化芸術情操教育
- テーマ4 障がい者の文化芸術

以降では、テーマごとに検討会及び文化芸術部会から出された意見を「板橋区文化芸術振興基本計画2020」の評価、課題、意見として要約しました。表の中の「分類」は、P15表1の「分類」に対応しています。

## テーマ1 板橋区の特色ある文化芸術

### (評価)

委員意見	分類
「自然と歴史と文化の里・赤塚」、「絵本のまち」など、板橋区の特徴あるものを活かす取組は評価できる。	風おこしー 1
区立美術館は絵本を通して、イタリア・ボローニャ市とのつながりを構築しており、評価できる。	風おこしー 1
区立美術館は、館所蔵の江戸美術と、板橋区の宿場町を感じる独自性のある展覧会などを行なっており、評価できる。	風おこしー 1 風おこしー 2
板橋区出身、ゆかりのアーティストの活動を支援することは評価できる。	風おこしー 1 人そだてー 2

### (課題・意見)

委員意見	分類
文化芸術は、活動そのものが区民の生きがいであり、生活の一部である。したがって、その成果がまちの活性化に繋がるものと捉えることが重要。	風おこしー 4
文化芸術活動は区民が主体であり、区は区民活動を支える環境を整えることが必要。また、区民活動を支えるために財政支援の充実を図ることも必要。	風おこしー 4 土づくりー 2 土づくりー 3
地域などの小さいエリアで継続する文化芸術活動が徐々に広がり、根づいていくことが望ましい。区はそうした活動を支援することが必要。	風おこしー 1 土づくりー 3
「鑑賞する文化」も重要だが、区民が主体となる「演じる文化」の充実が重要。	風おこしー 3 風おこしー 4 人そだてー 2
文化芸術活動をしている人間が一生懸命になるのは、観客がしっかり観てくれているからであり、発表の機会を充実させていくことが重要。	風おこしー 4
区内18地域センターごとに行われているイベントや町内ごとのまつり、年中行事などを見守ることも大切。	風おこしー 1
区として、まず取り組むべきは地域文化振興(地域に根ざした文化芸術振興)と地域活性化(区民の発表の場)である。	風おこしー 3 風おこしー 4
文化芸術は、区民の心を豊かにすることや、地域の活動を助けるなど、地域のコミュニティと連携することで、地域課題を解決する力がある。	—
多様な文化芸術活動があり、すべての人が自由に活動できる環境を提供することが必要。そのために各活動を把握し、共有し、支援することが必要。	風おこしー 3 土づくりー 3
施策に具体性を持たせるために、区内の文化芸術資源を細分化し、活用方法を検討することが必要。	風おこしー 1



教育、福祉、観光、国際交流など関係分野と連携し、分野横断的な取組を行うことが必要。	土づくり－３
区内の魅力が点と点で存在しており、点と点をつなげば線となり、線と線が交われば、面となる。そうした取組を行うために、行政だけではなく、大学、民間などと連携できる環境が重要。	風おこし－１ 土づくり－３
多岐に渡る文化芸術支援も必要だが、区として一体的に取り組むことも必要。例えば、美術館展示と並行して、その他区内施設も連携したイベントを開催するなど一体的な展開を行い、区がそれらをまとめるキュレーター(展覧会の企画・構成・運営などをつかさどる)として、発信する仕組みがあるとよい。	風おこし－１ 土づくり－１
区は所有するコンテンツの魅せ方を工夫することで、価値あるものとして展開し、区のブランド化に繋げていくことが必要。	風おこし－１ 記憶つむぎ－１ 記憶つむぎ－２
区は所有する文化や文化施設などのコンテンツを若い人に委ねることで、新たな発想や、持続可能な文化芸術に繋がるのではないかな。	人そだて－１ 人そだて－１
区民一人ひとりが、身近に文化芸術の発展を感じられることが必要。そうしたときに、リニューアルオープンする中央図書館を新たな文化芸術情報の発信源としてアピールしてはどうか。それにより、区民が想像しやすい文化芸術振興として、文化会館と中央図書館という象徴がより際立っていくのではないかな。	風おこし－１
伝統工芸は歴史的、美術的価値があり、美術館で展示するなど価値あるものとして発信し、区のブランド化に繋げることが必要。また、そうした取組は若者が伝統工芸に関心を持つきっかけとなるのではないかな。	風おこし－１ 記憶つむぎ－１
区の文化芸術のブランド化について、発信すべきものの整理と、ストーリー性を持たせることが重要。	風おこし－１
伝統工芸は、後継者不足による継承問題がある。伝統工芸などを教育の一環として教えるだけでなく、そこから継承に繋げる発展が必要。	記憶つむぎ－１
伝統工芸の継承として、広く知ってもらうことが重要。そのために、文化会館や美術館での常設展示や、また、区民参加型事業などの体験を通して、素晴らしさを知ってもらい、後継者不足などの問題解決ができるとよい。	記憶つむぎ－１
伝統工芸士の後継者が不足していることなどを鑑み、伝統文化への総合的な支援が必要。	記憶つむぎ－１ 土づくり－２
伝統文化の継承は、次世代の若者が関心を持つことが重要。また、区は伝統文化と若者の間のハブの役割を担うことが必要。	記憶つむぎ－１
学校教育を通して、子どもたちに文化芸術、伝統文化を浸透させることで、持続可能な文化芸術振興が見えてくるのではないかな。	記憶つむぎ－１ 人そだて－１
区の特徴である民俗芸能は、伝統を守っていくことも大事だが、創造を加えていくことも必要。また、創造活動をすることによって、伝統的な文化の価値に気づくことができる。	土づくり－１
小さなイベントであっても継続することの意義をもって、伝統ある民俗芸能や板橋の文化を興していく必要がある。	記憶つむぎ－１

古い文化を維持継承するのか、現代の文化活動を支援助成するのか、板橋固有の文化遺産を重視するのか、区には無関係な文化財を重視するのか、これらの視点も踏まえて、検討していくことが必要。	記憶つむぎ－１ 記憶つむぎ－２
史跡公園は、未来に残す過去の文化財であり、戦争を賛美する事ではなく、戦争を機会に発展した、科学・工学の進歩を象徴するものとして公開していくことが必要。	記憶つむぎ－２
区の歴史的文化を保管・維持しているのは郷土資料館と公文書館であり、板橋の文化を語る上では、郷土資料館と公文書館は重要と考える。	記憶つむぎ－１ 記憶つむぎ－２
伝統芸能や遺跡などのある地域の小学校では、その地域の文化に触れる機会を多く持ってほしい。	記憶つむぎ－１ 記憶つむぎ－２
伝統文化は、元々は村の行事で、区民全体に見せる前提ではないこともあり、触れる機会は少ない。そのため、伝統文化は本人が積極的に見る機会を探すべきで、伝統行事に興味を持たせるような施策が必要。	記憶つむぎ－１
伝統文化は、何をもって保存・継承とするかは、人によって意見が分かれる。また、ただ保存すればいいという訳ではないという意見もあり、そうした点を踏まえ、検討していくことが必要。	記憶つむぎ－１ 記憶つむぎ－２
「絵本のまち」は、子どもが活躍できるテーマであり、子どもが主体的に区と関わることができる機会として捉えていくことが重要。	風おこし－１ 人そだて－１
「絵本のまち」は、絵本を軸にしたどのような展開をめざすのか示すことが必要。また、絵本を起点として、歴史ある伝統文化と新しい文化芸術が結びつくなど、新たな創造のきっかけとしてはどうか。	風おこし－１
海外から寄贈される絵本は貴重な資料であるが、翻訳がされていないため活用できていない。翻訳も踏まえ、活用方法を検討することが必要。	風おこし－１
イタリア・ボローニャ市との絵本文化の交流を活かし、区のオリジナル絵本を作成し、ブックスタートを行なってはどうか。また、廃校を利用して芸術家の活動や交流の場としてはどうか。	風おこし－１ 人そだて－１
いたばしボローニャ絵本館は絵本文化の担い手として「絵本のまち」の推進役になると考えられる。	風おこし－１
国際交流を通じた海外文化と日本文化の融合や連携は、新たな創造や文化理解を通じた相互理解につながるものである。	風おこし－１
美術館による地域芸術家支援や発信などを充実させていくべき。	土づくり－２
文化芸術の評価として、数値も大事だが、数値だけでなく内容への評価も大切である。参加者数が減少しても、参加者が内容に満足していれば評価に値するものであり、また、主催者が事業や集客方法に対して、どれだけ考えて取り組んできたかという観点も評価として重要。	－
コロナ禍で直接対面できない状況をつなぐものとして、インターネットを活用した積極的な情報発信が重要。区立美術館の宣伝を世界中の人が見ることができるようするなど、発信力への取組も重要。	土づくり－２

## Ⅰ 検討テーマ２ 文化芸術活動の場

### (評価)

委員意見	分類
文化芸術活動の場として、アウトリーチ事業(出張事業)など、文化芸術活動の裾野を広げる取組は評価できる。	風おこしー 2

### (課題・意見)

委員意見	分類
文化会館は音漏れによる利用制限があり、解消することで活動の場や鑑賞機会の拡大につながる。	風おこしー 3
文化会館は多くの人が利用する場であり、文化芸術の情報発信拠点として活用していくことが必要。	風おこしー 3 土づくりー 1
文化芸術活動の場として、区の文化芸術拠点である文化会館をどのように活用していくか具体的な検討が必要。	風おこしー 3
公的空間や屋外施設を活用するなど、新たな文化芸術活動の場の創出が必要。屋外であれば新型コロナウイルス感染症への対応など、柔軟な文化芸術活動の実施につながる。	風おこしー 3
区民主体の文化芸術活動を促進するために、文化施設など活動できる場所の認知度の向上が求められる。民間の力を活用するなど、周知の方法を検討していくべき。	風おこしー 3 土づくりー 1
文化施設の空室活用として、状況に応じて低価格で提供することで、活動の場の提供、空室解消など各方面に利益となる取組になるのではないかな。	風おこしー 3
板橋区には若い芸術家が多いが、発信の場として板橋区を選択していないことが課題として挙げられる。	風おこしー 3
廃校の活用として、若手芸術家などがプロフェッショナルな方々と交流する場としてはどうか。文化芸術の担い手の育成としても重要。	風おこしー 3
若い人が魅力を感じるような環境をつくることで、新たな発信・発想の芽生えが生まれるような「場」が形成されていく仕組みづくりなどが重要。	風おこしー 1 風おこしー 3 人そだてー 2
活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整えることが必要。	風おこしー 3 土づくりー 1
文化施設へのアクセスは重要であり、利用しやすい環境をハード面、ソフト面の両方で取り組んでいくことが必要。	風おこしー 3
郷土芸能伝承館は、設立の趣旨や目的に即した利用がされているかなどを検討及び調査していくことが必要。	記憶つむぎー 1
アウトリーチ事業(出張事業)は、鑑賞機会の創出だけでなく、福祉施設などで文化芸術活動を支援するなど、地域課題を解決する展開も必要。	風おこしー 2 人そだてー 2
アウトリーチ事業(出張事業)の鑑賞者をどのようにして、主体的な活動や鑑賞につなげていくかが重要。	風おこしー 2 人そだてー 2

### Ⅰ 検討テーマ3 文化芸術にかかる情操教育

#### (評価)

委員意見	分類
板橋区には、芸術として認められた「絵本」が、海外からの寄贈を中心に集まっており、これは板橋区の信頼の積み重ねによるものと評価ができる。また、子どもが親しめる絵本を通して、芸術や多文化に触れる機会を独自に創出ができることは貴重である。	風おこしー1 風おこしー2 人そだてー1
区の絵本事業は、子ども目線を重視した絵本展示、絵本読み聞かせなどを行っており評価ができる。また、美術館との連携など地域イベントとして推進していることも評価ができる。	風おこしー2 人そだてー1

#### (課題・意見)

委員意見	分類
文化芸術は心を豊かにするものであり、情操教育として重要。そのため、子どもの鑑賞や体験の場の充実が必要。	風おこしー2 人そだてー1
子どもの豊かな想像力をはぐくむ取組(授業)が重要であり、結果、文化芸術を発展させていくことにつながる。	人そだてー1
子どもの文化芸術の浸透として、学校教育に盛り込むことが効果的。	人そだてー1 土づくりー3
学校教育に文化芸術を取り入れることについて、アーティスト自身も子どもの教育とどのように関わることができるか、自ら考えていくことが必要。また、アーティストが取組を行う場合には、区や学校は取組を支援する仕組みや環境を整えることが重要。	風おこしー2 人そだてー1 土づくりー3
子どもと文化芸術の結びつけとして、美術展示や演目披露だけでなく、ワークショップや参加型イベントを連携して行うことで、子どもたちが興味や関心を持つきっかけとなるのではないかな。	風おこしー2 人そだてー1
子どもにとっての文化芸術は、自身の能力や資質を高める機会として捉えることが重要。	人そだてー1 人そだてー2



## Ⅰ 検討テーマ4 障がい者の文化芸術推進

### (課題・意見)

委員意見	分類
障がい者と文化芸術の接点をどのようにつくるかが課題。接点のきっかけとして、障がい者の視点で「仕組み、情報、アドバイス」を提供することが重要。例えば、障がい者に関する知識を有するアーティストの紹介や、バリアフリー対応の貸施設、補助制度などを一体的に案内することで、「やってみよう」と思えるところまでサポートできるとよいのではないかな。	土づくり－1
区が実施する事業は、障がい者及び支援団体を交えて検討することが必要。	風おこし－1
障がい者の文化芸術推進について、区としての方針や考え方を示し、区民が理解して、一体的に取り組んでいくことが必要。	土づくり－3
障がい者に対応した公演などを開催したいときに、実務的な知識や経験が必要となるため、そうした知識や経験を伝える講座などがあってもよいのではないかな。	人そだて－2 土づくり－1
障がい者への配慮と併せて、「文化芸術の障壁をなくす」発想で、性別や年齢、国籍などの多様性を踏まえた、誰でも参加できる方向性で取り組むことも重要。	風おこし－3
文化芸術への関わり方は、活動や鑑賞に限らず多様であり、どのような関わり方をつくっていくかという視点も大事。	人そだて－2
障がい者による文化芸術活動と学校教育を連携させることで、障がい者の活動の場の拡大や相互理解につながる。	人そだて－1 人そだて－2
情報発信においては、文化芸術情報の点字案内や、PDFファイルの音声読み上げ対応により、多くの人が参加できるようになる。	土づくり－1
文化会館のバリアフリー化の推進が必要。例えば、点字案内やエレベーター内のスペース拡張などの施設改善により、障がいの有無や年齢、性別に関わらず、誰もが文化芸術活動を行いやすい環境を整えることにつながる。また、視覚障がい者に対応した音声ガイドなどを施設付帯設備とすることで、様々な団体がバリアフリー設備を利用できる環境となり、バリアフリー対応公演が増えることにつながるのではないかな。	風おこし－3
障がい者の文化芸術推進を論点として追求していくことよりも、文化会館という区内の文化芸術発信拠点において、バリアフリーなどを積極的に推進することで、障がい者の文化芸術推進や共生推進を示していくことが重要ではないかな。	風おこし－3

### Ⅲ 板橋区の多文化共生について

#### (1) 板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020

「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」では、3つの施策の柱(「コミュニケーション支援」「生活支援」「多文化共生の人づくり」)を中心に計画を推進してきました。なお、「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」の施策の柱は、以下の通りです。

表2

めざす将来像	施策の柱	施策項目	分類
外国人とともに暮らし「もてなしの心」で言葉や文化のちがいを認め合い「板橋」	コミュニケーション支援	多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供	コミュ支援－1
		外国人にもわかりやすいサインの表示	コミュ支援－2
		日本語及び日本社会に関する学習機会の提供	コミュ支援－3
	生活支援	日常生活における各種支援	生活支援－1
		子育て・教育支援サービスの利用促進	生活支援－2
		日本語の学習支援	生活支援－3
		多文化共生の視点に立った国際理解教育の推進	生活支援－4
		災害に対する備えの充実	生活支援－5
	多文化共生の人づくり	啓発・交流事業の実施及び活動支援	人づくり－1
		多文化共生意識の醸成	人づくり－2
		外国人の社会参画推進	人づくり－3

※表の中の「分類」は、P24～30に記載する一覧表の「分類」に対応しています

#### (2) 多文化共生を取り巻く環境の変化など

「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」を推進する一方、国における新たな法律の制定や法改正、社会情勢や区内の新たな動向など、多文化共生を取り巻く環境が変化しています。

##### <国及び社会情勢の動向>

- 国際文化交流の祭典の実施の推進に関する法律(平成30年6月)
- 国際文化交流の祭典の実施の推進に関する基本計画(平成31年3月)
- 改正出入国管理法(平成31年4月)
- 日本語教育推進法(令和元年6月)
- SDGsの推進

##### <板橋区の動向>

- 総人口は増加傾向、2030年をピークに緩やかに減少(板橋区人口ビジョン)
- 外国人住民は増加傾向、令和2年1月時点28,782人(総人口比5%)

### (3) 板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020の評価・課題など

このような状況に照らし、「板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020」を推進していく中で、区が認識している残された課題や、新たな課題は主に下記のようなものがあります。

#### <残された課題>

○外国人材の受け入れ、共生のための総合的対応策(改正出入国管理法)

#### <新たな課題>

○増加する外国人住民への支援充実

○日本語教育の充実とやさしい日本語の検討

○国際交流と文化事業の連携促進

なお、「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」を検討するにあたり、多文化共生部会を設置しました。環境の変化などを踏まえ、多文化共生部会においても、前計画に関する評価を行うとともに、課題整理や意見交換を行いました。

多文化共生部会の開催にあたり、議論の整理を行うために、検討のテーマを下記の4つに分類しました。

テーマ1 板橋区の特色ある国際交流

テーマ2 日本語教育とやさしい日本語、多言語対応

テーマ3 国際理解教育・多文化理解

テーマ4 地域における外国人との共生と災害対策

以下では、テーマごとに、検討会及び多文化共生部会から出された意見を板橋区多文化共生まちづくり推進計画2020の評価、課題、意見として要約しました。表の中の「分類」は、P23表2の「分類」に対応しています。

#### | テーマ1 板橋区の特色ある国際交流

(評価)

委員意見	分類
板橋区が行っている国際交流事業として、一つの区がこれだけの事業を行っていることは評価できる。	人づくり－1 人づくり－2
平成30年度に行った「板橋区海外姉妹友好都市紹介イベント」のなかで、企画展示をGoogle ストリートビューで公開するという試みを行ったが、再生回数が15,687回という数字だったことは素晴らしい。	人づくり－1
交流都市が23区内最多の5か国という点は非常に評価できる。国際交流は世界平和につながるもので、重要である。	人づくり－1
市(区)民交流に関して、交流後もパネル発表やスピーチを行うなど、広く区民に周知するように取り組んでいる。	人づくり－2

(課題・意見)

委員意見	分類
多文化共生を行う上で、相手の文化の理解が必要となる。	生活支援－３
外国人の生活実態を、日本人が理解できる仕組みづくりが必要。	人づくり－２
生活における問題を外国人コミュニティで解決しているが、諸問題について行政として把握していく必要がある。	生活支援－１
外国人のニーズや課題の把握、相談体制の整備をして、生活実態を把握することが必要。	生活支援－１
外国人が安心して母国語で話せる場所や、機会を作ることも必要。	人づくり－１
外国人の国籍や言語の多様化に対応するため「やさしい日本語」の活用を推進する必要がある。	コミュ支援－１ コミュ支援－２
外国人が住みやすい区にするために、小・中学校、地域、大学の連携を強めることが必要。	生活支援－４
地域での交流は、外国人を町会の活動に巻き込むなどして、地域に住む住人・地域の担い手として扱うべきである。	人づくり－３
海外から板橋区に来る外国人は、生産年齢人口が多い。今後は「仕事」という側面での交流を考えていき、起業などを支援できれば、外国人が板橋区の雇用を生み出し、地域経済の担い手になってもらえると思う。	生活支援－１ 人づくり－３
互いを理解し、違いを認識することが重要。それぞれの立場での表現や捉え方によって差別問題ともなる。	生活支援－３ 人づくり－２
事業については、外国人のために用意するのではなく、日本人が普段活動している中に、外国人が入っていければよい。	人づくり－３
事業を行う際は、小さな単位で行い、参加者が互いの顔を見られる環境づくりが大切。	人づくり－１ 人づくり－３
板橋区が主体的に事業を行うのではなく、区民の活動をサポートすることが重要。	人づくり－１ 生活支援－１
文化芸術活動などを通じた、外国人と日本人の交流機会があるとよい。	人づくり－１ 人づくり－２
俳句や短歌などの文化芸術を通して日本語の面白さを知ってもらい、日本語が身につく仕組みづくりの構築も重要。	コミュ支援－３ 生活支援－３
祭りなど多くの人が集まる「広場」を作ることで、対話が生まれる。そうした広場に外国人や区民を「巻き込む」施策が重要。	人づくり－３
SDGsの視点から多文化共生の推進に取り組むためには、外国人が日本で学んだ知識や技術を母国に持ち帰ってもらうという発想が必要。	人づくり－１ 人づくり－３



社会の問題を世界中の人々でどのように解決していくかという問いが、SDGsの取組を発展させる方向性のひとつである。	人づくり－1
友好都市をはじめとする国際交流は、行政課題に関するテーマをもって行うという視点が必要。	人づくり－1
板橋区は交流都市が23区中で1番多い5か国となっている。交流都市からの来賓について、建設関係や教育・高齢者施設視察など、テーマをもって受け入れを行えるとよいのではないかな。	人づくり－1 人づくり－2
交流都市との青少年・区民交流は、一度きりの交流ではなく、継続的な関係を築く必要がある。	人づくり－1 人づくり－2
多文化共生センターなどの活動拠点を整備して、ボランティアの活動を支援する必要がある。	コミュ支援－3 生活支援－3

## Ⅰ テーマ2 日本語教育とやさしい日本語※、多言語対応

※やさしい日本語…普通の日本語よりも簡単で、外国人にもわかりやすい日本語のこと  
(2020年オリンピック・パラリンピック大会に向けた多言語対応協議会ホームページ)

### (課題・意見)

委員意見	分類
多言語対応は、既存の文書などの言語を翻訳するだけでなく、今あるものを根本から見直し、誰にとってもわかりやすいものを作ることが重要。	コミュ支援－1
行政における通訳・翻訳体制の強化を推進することが必要。	コミュ支援－1 生活支援－1
外国人の国籍や言語の多様化に対応するため、やさしい日本語の活用を推進することが重要。	コミュ支援－1 コミュ支援－2
やさしい日本語は、お年寄りや障がい者にも理解しやすいなど、福祉的要素もあるため推進する必要がある。	コミュ支援－1 コミュ支援－2
やさしい日本語の職員研修は、どの程度職員に浸透しているのかが重要。また、継続していくことが重要。	コミュ支援－1 人づくり－2
外国人が住みやすい区にするために、小・中学校、地域、大学の連携を強めることが必要。	生活支援－4
外国人の子どもに対して、入学前オリエンテーションを行うことで、価値観や日本の文化習慣(学校ルール、挨拶、年間行事)などを事前に説明することが必要。	コミュ支援－3 生活支援－2
外国人の親が日本の学校制度を理解することも必要。入学前オリエンテーションのほかに、相談会なども必要ではないかな。	生活支援－1 生活支援－2

日本語教育だけでなく、日本特有の学校教育の「仕組み」を理解してもらうためのサポート体制の充実が必要。	生活支援－ 2
日本の文化に触れることを通して、日本語を学ぶことができる仕組みづくりが必要。	コミュ支援－ 3 生活支援－ 3
外国人の間に生まれてきた子どもたちが、日本語のリズムを身に付けられる環境を整えるために、短歌や俳句を活用していけたらよい。	生活支援－ 3
地域交流について、無償ボランティアの支えにより成り立っていると感じる。そうしたボランティアの取組を行政がサポートしていくことが必要。	生活支援－ 1
行政のサポートが不十分で、ボランティア同士のつながりが希薄だと感じるボランティア活動もある。行政とボランティア、またボランティア同士の交流を深めることで、より有効なサービス提供につながる。	コミュ支援－ 3
区内の外国人住民数に対して、通訳などのボランティア人数が足りていない。	生活支援－ 1
ボランティア活動に関わる区民の数を増やすことが重要。	コミュ支援－ 3
日本語教室の専門スタッフとして、ボランティアだけでなく職員が必要。	生活支援－ 1
ボランティアに対する敬意を、何らかの形で区から示すことが必要ではないか。	生活支援－ 1
地域の行事に関する掲示物について、外国人向けに多言語対応をすることが困難である。	コミュ支援－ 1
外国人に地域の行事に参加してほしいと思っても、周知することが困難である。	コミュ支援－ 1
街中案内版が英語化されていることで、外国人は安心する。	コミュ支援－ 1
学校における日本語教育が十分ではないと感じる。	生活支援－ 3
外国人の子どもが小さいうちから、読み聞かせや読書など通じて、読解力や知力を身につけることができる環境を整えることが必要。	生活支援－ 3
コロナ禍で直接対面できない状況をつなぐものとして、インターネットは双方向で学びあえるツールであり積極的な活用が重要。また、これを機に日本語の勉強も自宅のできるような方法を検討することが必要。	コミュ支援－ 3

### テーマ3 国際理解教育・多文化理解

#### (評価)

委員意見	分類
小・中学生の時に国際交流になじむことで、その後の国際交流に対する心理的障壁はなくなると考える。そうした観点から、小・中学校での国際理解教育は評価できる。	生活支援－2 人づくり－1

#### (課題・意見)

委員意見	分類
多文化共生の人づくりとは、いかに多くの人を巻き込めるかという点にかかっていると感じる。	コミュ支援－3 生活支援－5 人づくり－1
多文化共生の推進において、相手の文化を理解することが重要。	生活支援－3
一度でも外国人との交流の機会を持つことができれば、日本人の中にある外国人に対する心の壁は取り除かれるものだと考える。特に、先入観のない子どもの頃に交流するということが重要で、子どもが学ぶ姿を見て、大人の側も、国際交流のあり方について考えさせられるのではないかな。	人づくり－1 人づくり－3
華道、茶道、着物など日本古来の文化のみでなく、日本人の日常生活における考え方やコミュニケーションのコツなどを紹介することを考えてもよいのではないかな。	人づくり－1
文化というと着物や茶道など、わかりやすいものをイメージしがちであり、文化紹介というと伝統文化の紹介に終始している現状がある。今後、国際理解や多文化共生を進めていくと、日常生活での文化、という視点での文化紹介が必要になってくると思われる。	生活支援－4 人づくり－1
ホームステイ・ホームビジット事業では、日本人が外国人を受け入れるのみならず、在住外国人が外国人を受け入れるということをしてよいのではないかな。	人づくり－1 人づくり－3
人と人のネットワークがどのように構築されているかということが重要である。行動したいと思い立ったときに、頼れる人材がすぐに見つかるような環境づくりをしていってはどうかな。	生活支援－1 生活支援－3
外国人同士の横のつながりがあれば、置いて行かれる人もいなくなる。外国人を、同じ国籍や言語のグループへどのように加えていくかが課題である。それと同時に、外国人グループのリーダー的な存在と板橋区がどのように関係性を構築していくか。一人ひとりに情報を伝えるという発想ではなく、外国人同士のつながりを活用した情報発信も考えていけたらよい。	コミュ支援－1 人づくり－3
小・中学校で、外国人の子どもが増えている。外国人の子どもの側から、日本人の小・中学生に自国の文化を紹介するというのはどうか。そうすることで、外国人の子どもに対する具体的なイメージが湧くのではないかな。	生活支援－4
単なる英語学習に留まらず、英語を通じた国際コミュニケーションを主眼に置くという、教員側の意識も必要。	生活支援－4
板橋区では今後、日本人の子どもと外国人の子どもが学校環境を共有するようになっていく。外国人の文化や考え方を理解するための教材として、海外から寄贈される絵本などを活用していけたらよいと考える。	生活支援－4 人づくり－2

## テーマ4 地域における外国人との共生と災害対策

### (課題・意見)

委員意見	分類
多文化共生では、自国の文化と他国の文化の違いを客観的に捉えて受け入れるということが重要である。そのためには、まず自国の文化に対する理解を深める必要がある。外国人に日本文化を紹介すると、その魅力を逆に外国人から日本人が教わることも多い。	生活支援－4 人づくり－1 人づくり－3
日本国内でも、各地域でそれぞれの文化がある。海外にも、地域によって、それぞれの文化がある。そういった違いを、互いに理解していくことが重要である。	生活支援－4 人づくり－1
日本人と外国人の互いの文化が、互いの人を通じて流動するような取組が大事。何か見せる、物で何かするだけでなく、互いに会話交流できる機会創出を行なっていくために、区が橋渡しをすることが必要ではないか。	人づくり－1 人づくり－2
新たな日本づくり、新たな板橋づくりということを考えた時に、外国人から学ぶ面も多いように思われる。互いに交流しつつ、孤立しないような関係性の構築が求められている。	生活支援－5 人づくり－1 人づくり－3
日本人と外国人の交流について、何もないところから、関係性を作り上げることは非常に困難であると考え。そういったノウハウをプログラム化できるとよいのではないか。	－
互いの文化を理解するためには、コミュニケーションが欠かせない。そうした意味で、生活習慣が言語化され、相手に伝わるような工夫が必要になってくる。	－
地域交流として、外国人を町会の活動に巻き込むなどして、関わりをつくる必要がある。	人づくり－1 人づくり－3
日本人が外国人に日本語を教えるのと同時に、外国人が日本人に外国語を教えるという、双方向の関係があってもよいのではないか。	人づくり－2 コミュ支援－3
外国人に地域の担い手になってもらうには、日本語を理解してもらうことが欠かせない。病気の際など、生活する上での困りごとをサポートできたらよい。	生活支援－1
外国人が日本のルール・文化を知らないばかりに、自分本位と思われるような誤解を生むなどのトラブルが発生しないよう、日頃から外国人に日本のルール・文化を理解してもらう取組が必要である。	人づくり－2 人づくり－3
日本人が外国人を理解しようという努力と、外国人が日本人を理解しようという努力の両方をサポートできる仕組みづくりが必要である。	人づくり－2
外国人との交流の場を作るには、まずテーマを決めるとよい。各国特有の食べ物や特技などを紹介するなど、工夫をする必要がある。	－
翻訳ソフトやアプリケーションなどを活用しながら、主体的に外国人とコミュニケーションを行う意識が必要である。	人づくり－2



SNSなどのオンラインツールを活用し、日本人と外国人が交流できる広場(アゴラ)を作っていく取組をしていけたらよい。	人づくり－1
ボランティアや人材バンクについて、外国人の登録が増えていけば、今までとは違う新しいものが生まれるのではないかな。	コミュ支援－1 コミュ支援－3 生活支援－3 人づくり－2
多文化共生に役立つことを何かしたいと思い立ったときに、講師などがすぐ見つかる人材バンクのようなものがあるとよいと考える。人材バンクに登録する際に研修を行うことが必要にはなるが、町会の催しや防災訓練などに、外国人が参加できるような環境づくりなどに役立てられるのではないかな。	生活支援－5 人づくり－1
災害対策の考え方として、自助と共助があるが、まずは外国人自らが災害に関する知識を深めることが重要で、それが自助につながる。そのために冊子類を活用することはとてもよいと考える。	生活支援－5
災害時、外国人は言語の壁や国籍の違いから、避難所に行きたがらない。そのため、自助ができるようになることが重要。	コミュ支援－1 生活支援－5
災害対策は日々の地域のつながりが重要。そこでは、ボランティアの果たす役割は大きい。ボランティア活動をする区民を増やすことが重要。	生活支援－5
災害時、自身の安全確保後にいかに周りの人を助けられるか学ぶ必要がある。日本の高齢化に対して、若い外国人住民が多いため、共助までめざすことが必要。	生活支援－5
災害時、大使館では地区ごとに外国人をまとめるコーディネーターがおり、情報収集・情報発信も管理している。同様の取組や、大使館との連携を深めることも検討してはどうか。	生活支援－5 コミュ支援－1
災害での外国人対応などを行政のみで行うことは、かえって行き届かないこともある。区民と協力し、一緒に行うことができる体制の構築が必要で、そうした取組が多文化共生につながる。	生活支援－5
外国人同士だけでの協力及び解決は、「共助」の観点からは望ましくない。日本人と外国人が災害・緊急時に共助しあうことが大切であり、日頃から外国人に日本人のルール・文化を知ってもらい互いに協力していく「共生」という感覚が大切である。	生活支援－5 人づくり－2
災害時ネットワークの構築を行い、外国人がわかる言葉で情報を提供できる体制づくりが必要である。	生活支援－5

## Ⅳ いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025への提案

### (1) 基本理念

本検討会は、前計画における評価や課題を踏まえ、次のような理念を持ち、ビジョン策定に取り組むことを提案します。

文化芸術は、文化芸術基本法(平成29年6月23日施行)前文において「人々の創造性をはぐくみ、その表現力を高めるとともに、人々の心のつながりや相互に理解し尊重し合う土壌を提供し、多様性を受け入れることができる心豊かな社会を形成するものであり、世界の平和に寄与するものである」と定義され、人々の暮らしに、楽しみや感動をもたらし、心の豊かさをはぐくむものです。さらに文化芸術による表現力は、人やまちの個性や魅力、地域への愛着を高めます。

また、多文化共生とは、自分と異なる考え方を持つ人々と接する中で、それぞれの違いを認め合う意識が生まれ、区民一人ひとりが暮らしやすいまちを実現することです。板橋区の外国人住民は年々増加しており、日本人や外国人という視点に捉われることなく、同じ地域に暮らす一員として、ともに心地よく暮らしていくことのできる社会の実現のために、多文化共生の推進は欠かせません。

これらを踏まえると、文化芸術と多文化共生の両計画の性格を併せ持つ、総合的なビジョンが策定されるものと考えます。文化芸術がもたらす人々の心のつながりや相互理解、多様な価値観を尊重する意識が多文化共生の促進に寄与することで、板橋のまちの魅力が高まり、社会包摂の機能を持つ基盤としての役割を果たすことができます。板橋ならではの文化と、外国人が持つ固有の文化とが調和することで、独創性のある新しい価値や発展が生まれ、まちのにぎわいの創出につながります。

なお、文化芸術振興及び多文化共生推進を個別的に推進すべき内容は、以下の各3つの目標に分けて、「2025年のあるべき姿」と「施策の方向性」を示します。

## (2) 文化芸術目標

### 目標 1 文化芸術の創造・享受・活動

#### ■ 2025年のあるべき姿

- イタリア・ボローニャ市との絵本文化交流や、歴史ある伝統文化など地域個性を活かした魅力が、区民をはじめとする多くの人に親しまれています。
- 地域ごとで行われるまつりなど、区民主体で行う文化芸術活動が活発に行われ、地域文化が根づく環境が整っています。
- 文化芸術活動は区民の生きがいであり、生活の一部であることから、区民の身近に文化芸術との接点が生み出されています。
- 海外から寄贈される絵本は、区の独自性を創出し、子どもをはじめとする誰もが親しめる文化芸術として浸透しています。
- 地域に点在する魅力を繋ぐことで、新しい創造や価値が生まれています。
- 海外文化と日本文化の融合により、新しい創造や相互理解が促進されています。
- 区民にとっての身近な環境や空間で、文化芸術に触れる機会が提供されています。
- 日常的に活動できる環境が整うことにより、区民が主体的に文化芸術活動を楽しんでいます。
- 文化芸術活動の発表の場が充実し、活動者のやりがいや、鑑賞の機会の創出に繋がっています。

#### ■ 施策の方向性

- 区内に点在する魅力をつなぐ、分野横断的な取組を推進する。
- 地域特性を活かした文化芸術を振興する。
- 区内の文化芸術資源を魅せ方や展開方法により、ブランド化につなげる。
- 板橋区出身、ゆかりのあるアーティストを支援する。
- 区民主体の文化芸術活動や発表の機会を創出し、誰もが参加しやすい環境を整える。
- 文化芸術へいざなう機会の充実を図る。
- 多様な文化芸術活動を支える財政支援を図る。
- アウトリーチ事業(出張事業)などを活用し、地域及び福祉的課題に取り組む。

## 目標 2 伝統文化・文化財

### ■ 2025年のあるべき姿

---

- 区の伝統文化や文化財が、区民にとって身近に親しまれることで継承されるとともにさらなる発展を遂げています。
- 伝統文化を保存するとともに創造を加えることで、新たな価値の発掘をしています。また、創造活動を通して、伝統的な文化の価値に気づききっかけとなっています。
- 学校教育を通して、伝統文化や文化財が子どもたちに浸透し、継承や地域への愛着につながっています。
- 地域個性である伝統文化や文化財を区民が知り、触れることでその素晴らしさや魅力を体感し、誇りを感じています。

### ■ 施策の方向性

---

- 伝統文化の魅力と、次代を担う人材の関心をつなぐ取組を推進する。
- 伝統文化や文化財の歴史的、美術的価値の発掘を推進する。
- 伝統文化や文化財の学習機会を充実させる。
- 伝統文化や文化財への支援を充実させる。
- 伝統文化や文化財の講座を拡充する。
- 郷土資料館と公文書館を中心とした、伝統文化や文化財の保存、公開及び歴史、情報の発進を推進する。



## 目標3 多様性・施設・環境

### ■ 2025年のあるべき姿

---

- すべての人が主体的に、自由に活動できる機会や環境が整っています。
- 文化会館を中心とした文化施設の設備・サービスの充実、ユニバーサルデザインの推進により、文化芸術への参加や鑑賞の機会が拡大しています。
- 子どもたちが文化芸術活動を通して、豊かな想像力や表現力を育み、自身の能力や資質を高める機会としています。
- 文化芸術は心を豊かにするものとして、鑑賞の場、体験の場が充実しています。
- 誰もが親しめる「絵本」を推進することで、子どもたちが主体的に板橋区との関わりを持っています。
- 交流の「場」をつくることで、新たな発信や発想の「場」が形成されています。
- 年齢や性別、障がいの有無を問わず、文化芸術を通じた交流が生まれています。

### ■ 施策の方向性

---

- 活動や鑑賞ができない人の実態を把握し、誰もが参加しやすい環境を整える。
- 誰もが利用しやすい文化施設の環境を整える。
- 文化施設以外の公的空間や屋外施設の活用を推進する。
- 文化会館の集客力を活かし、文化芸術情報の発信拠点として推進する。
- 文化芸術活動の裾野を広げるアウトリーチ事業(出張事業)などを推進する。
- 文化施設の管理と、事業実施主体を整理する。
- 文化施設で手話通訳者サービスや音声ガイドなどを導入することで、バリアフリー公演を推進する。
- 区民活動を支える支援体制を推進する。
- 区民活動や芸術家の支援を充実させる。
- 情操教育として鑑賞の場、体験の場を充実させる。
- アーティストが学校教育で文化芸術を提供できる環境や仕組みを整える。
- 障がい者が安心して文化芸術に参加するための情報発信を推進する。

### (3) 多文化共生

#### 目標 1 多言語化・多言語対応

##### ■ 2025年のあるべき姿

- 多言語対応は、既存の文書などの言語を翻訳するだけでなく、今あるものを根本から見直し、誰にとっても本当にわかりやすいものが作られています。
- 在住外国人の国籍や言語の多様化に対応するのみならず、高齢者や障がい者にも理解しやすい「やさしい日本語」を活用する意識が徹底されています。
- 在住外国人や訪日外国人のためにも、街中案内版が英語化されています。

##### ■ 施策の方向性

- 日本の文化に触れることを通して、日本語を学ぶことができる仕組みづくりを行うなど、日本語学習機会提供のさらなる充実を行う。
- 「やさしい日本語」の職員研修は、どの程度職員に浸透しているのかが重要である。また、取組を継続していく。
- 俳句や短歌などの文化芸術を通して、日本語の面白さを知ってもらい、日本語が身につく仕組みなどの構築を行う。

## 目標 2 生活・防災情報の伝達・各種相談

### ■ 2025年のあるべき姿

---

- 災害での外国人対応などを行政のみで行うことにより、かえって行き届かないこともありま  
す。区民と協力し、一緒に行うことができる体制の構築がされていることが理想であり、  
そうした取組で多文化共生に繋がります。
- 災害対策は、日々の地域のつながりが重要であり、そこでは、ボランティアが大きな役  
割を果たします。ボランティア活動をする区民が現在よりも増えていることをめざしま  
す。
- ボランティアや人材バンクについて、外国人の登録が増えることで、今までとは違う新  
しいものが生まれています。
- 災害時、自身の安全確保後に、いかに周りの人を助けられるかを外国人が学び、日  
本の高齢者などに対して、若い外国人住民が共助まで行えるような状況をめざしま  
す。

### ■ 施策の方向性

---

- 生活における問題を外国人コミュニティで解決している状況が見受けられるが、諸問  
題について行政として把握していく。また、外国人のニーズや課題の把握、相談体制  
の整備をして、生活実態を把握する。
- 行政における通訳・翻訳体制の強化を推進する。
- 多文化共生センターなどの活動拠点を整備して、ボランティアの活動を支援する。
- 災害時ネットワークの構築を行い、外国人がわかる言葉で情報を提供できる体制づく  
りを行う。
- 外国人の子どもを対象とする、入学前のオリエンテーションを行う。価値観や文化の  
違いなどを事前に説明しておくことで、学校生活に早くなじむことができる。
- 外国人の親が日本の学校制度を理解しないと、子どもの学校教育に支障があるた  
め、入学前オリエンテーションのほかに、相談会などを実施する。
- 日本語教育だけでなく、日本特有の学校教育の「仕組み」を理解してもらうためのサ  
ポート体制を充実させる。
- 災害対策の考え方として自助と共助があるが、まずは外国人自らが自助できるよう、  
災害に関する知識を深めることが重要で、そのために冊子類を活用する。

## 目標3 人材育成・教育・啓発・海外姉妹友好都市との交流

### ■ 2025年のあるべき姿

- 海外から板橋区に来る外国人は、生産年齢人口が多数を占めています。今後は「仕事」という側面での交流を考えていき、起業などを支援できれば、外国人が板橋区の雇用を生み出し、地域経済の担い手になってもらえると考えます。
- 板橋区は交流都市が23区中で1番多い5か国となっています。交流都市からの来賓について、建設関係や教育・高齢者施設視察など、テーマをもって受け入れます。
- 外国人同士の横のつながりがあれば、置いて行かれる人もいなくなります。外国人を、同じ国籍や言語のグループへ加え、それと同時に、外国人グループのリーダー的な存在と区が関係性を構築していくことで、一人ひとりに情報を伝えるという発想ではなく、外国人同士のつながりを活用した情報発信が行える状況をめざします。
- 人と人のネットワークがどのように構築されているかが重要であり、行動したいと思い立ったときに、頼れる人材がすぐに見つかるような環境づくりがされています。

### ■ 施策の方向性

- 外国人が住みやすい区にするために、小・中学校・地域・大学の連携を強化する。
- 小・中学生の時に国際交流になじむことで、大学生になってからも、国際交流に対する心理的障壁はなくなると考える。そのような観点から、小・中学校での国際理解教育を実施する。
- 小・中学校で、外国人の子どもが増えていることを踏まえ、外国人の子どもの側から、日本人の小・中学生に自国の文化を紹介するという試みを行う。
- 多文化共生では、自国の文化と他国の文化の違いを客観的に捉えて受け入れるということが重要である。そのためには、まず自国の文化に対する理解を深める必要がある。こういった点を踏まえ、外国人に、日本文化の魅力を感じてもらったうえで、その魅力を外国人の側から日本人に伝えるという取組などを行う。
- 地域での交流は、外国人を町会の活動に巻き込むなどして、地域に住む住人・地域の担い手として扱うべきである。事業については、わざわざ外国人のために用意するのではなく、日本人が普段活動している中に、外国人が入っていけるような配慮をする。また、事業を行う際は、小さな単位で行い、参加者が互いの顔を見られる環境づくりを行う。
- 交流都市などとの国際交流は、行政課題に関するテーマをもって行う。
- 交流都市との青少年・区民交流は、一度きりの交流ではなく、継続的な関係を築いていく。
- 華道、茶道、着物など日本古来の文化のみでなく、日本人の日常生活における考え方やコミュニケーションのコツなども併せて紹介していく。
- 祭りなど多くの人が集まる「広場」を作ることで、対話が生まれる。そうした広場に外国人や区民を「巻き込む」施策を実施する。



## V 社会情勢への対応と取組

本検討会の議論にあたり、新型コロナウイルス感染症の拡大が文化芸術及び多文化共生に与えた影響は甚大であり、今後、板橋区の5年間の施策の方向性を示す「いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン2025」の実現は難しいとの意見もありました。しかし、この状況下において行った検討会だからこそ、困難な社会情勢に対応するための課題について議論ができたとも考えられます。

例えば、文化芸術においては、集客や施設利用が制限される中であっても、状況に対応した新しい形での文化芸術活動を継続していくことができる環境が必要です。多文化共生においては、社会的危機が訪れた際に、外国人も含む住民に的確に情報を届けることが必要で、地域に暮らす外国人と言語的、心理的障壁を超えたつながりを日頃から構築することが重要です。

これらは社会包摂という概念において、誰一人取り残さないというSDGsの理念に通ずるものであり、文化芸術・多文化共生を一体的に推進するという取組の重要性を再認識させるものです。

この大きな変革が求められる今だからこそ、新しい時代への文化芸術と多文化共生の取組を検討会からの区への期待として、次の通り記載します。

### ■ 現在の情勢を踏まえて区へ期待すること

#### 要望 1 文化芸術事業の継続性の担保

国内外の情勢や経済状況により、板橋区の財政運営が多大な影響を受ける状況においても、文化芸術は「区民全体の社会的財産」であることに鑑み、区民が文化芸術活動の恩恵を享受できるよう、財政措置・事業継続性の確保を望む。

#### 要望 2 文化芸術活動の場の創出

文化芸術活動は、区民や芸術家にとって生活の一部であることから、様々な情勢や状況下においても文化芸術活動ができるよう、活動の場の確保・創出を望む。

#### 要望 3 地域の外国人との関係性の構築

外国人が日常生活で直面する困りごとなどをスムーズに解決することを目的として、外国人を巻き込んだ地域コミュニティの構築や、各コミュニティのニーズの把握を行うよう望む。

#### 要望 4 外国人の子どもに対する支援の充実

外国人の子どもが、言葉や文化の壁に直面せず、より充実した生活や学習環境を得られることをめざし、ボランティア制度の更なる充実や日本語及び日本文化の学習機会を提供するよう望む。

以上をいたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会の報告とします。

## 5 関連事業一覧

検討会報告書に基づく施策と、関連する主な事業を以下の表で示します。なお、この一覧は策定時点のものであり、計画期間中の新規事業などは随時追加します。

### (1) 文化芸術

【目標1 板橋の魅力ある文化芸術を人々の心に届ける】 ★は新規事業または事業拡充を図るもの

事業名	事業概要	担当部署
施策1:個性あふれる文化芸術の創造・享受		
美術館展示事業★	江戸狩野派や池袋モンパルナス、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展などユニークな展覧会を開催し、多くの来館者が芸術に親しむ機会を提供します。	美術館
イタリア・ボローニャ国際絵本原画展	イタリア北部の古都ボローニャで毎年開催される絵本原画コンクールに入選の全作品を紹介します。	美術館
ボローニャ・ブックフェアinいたばし	友好都市交流協定を結んでいる北イタリアのボローニャ市で毎年春に行われる「ボローニャ児童図書展」に出展され、板橋区に寄贈された世界各国の絵本を紹介します。	中央図書館
いたばし国際絵本翻訳大賞	外国の文化に触れ、国際理解を育むことを目的に、英語とイタリア語の絵本の翻訳コンテストを実施します。また、国際理解を深め、表現力や英語力を高めることを目的に、中学生部門も設けます。	中央図書館
落語文化の推進	人気実力のある落語家による「板橋名人寄席」や区内在住の若手落語家による「板橋落語会」を通して、区の魅力を発信します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
エドコレ(江戸絵画コレクション商用利用サポート事業)	美術館所蔵の古美術の絵柄をはじめ、美術的なデザインの活用を促し、美術館が発信する文化芸術ブランドの演出や、区の文化芸術イメージの向上を図ります。	美術館
板橋区民まつり	区民総参加のもとに、まつりを通して連帯の輪を広げ、郷土愛を深め、歴史と文化に根差した板橋の魅力を内外に発信し、元気で活気あふれるまちの実現をめざして開催します。	くらしと観光課
板橋Cityマラソン	あらゆる世代のすべての人々が、「する」「観る」「支える」の視点から多様な形でかかわることができる機会を提供し、健康で明るく豊かな生活の実現に寄与することを目的に開催します。開催にあたり、安心・安全や環境に配慮した持続可能な取り組みを行うとともに、区民など関係団体の連携・協働によるにぎわいを創出し、板橋区と自然豊かな荒川の魅力を日本全国及び海外に発信します。	スポーツ振興課
施策2:文化芸術活動や発表の機会の充実		
板橋区民文化祭	2か月間にわたって開催する区内最大の文化芸術イベントとして、区民の多様な文化芸術を発表する機会並びに鑑賞する機会を提供します。	文化・国際交流課
板橋第九演奏会	プロの指揮者・ソリストとともに、区民合唱団として舞台に立つ機会を提供するフルオーケストラ演奏会を開催します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
区民参加事業	区民の主体的な文化芸術活動を盛り上げるとともに、文化芸術へのいざない、次世代や担い手の育成、発表の機会の提供を図ります。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団

【目標2 伝統文化の営みを継承し、まだ見ぬ魅力を発見する】

事業名	事業概要	担当部署
施策3: 伝統文化の継承と浸透		
郷土資料館事業	区内で出土した土器、古文書、民俗資料、古民家などを収蔵・展示し、郷土の歴史や文化をテーマとした企画展を開催することで、地域への愛着や誇りを育みます。	生涯学習課
いたばしの郷土芸能	国指定の重要無形民俗文化財や区指定無形民俗文化財の保存団体と連携し、区内に伝承する郷土芸能を観賞する機会を提供し、伝統文化の保護・継承を図ります。	生涯学習課
赤塚城戦国絵巻武者行列	区内在住の甲冑師やいたばし武者行列保存会と連携し、侍の武装具の芸術的価値を発信します。また、紙で手作りした鎧兜を着た子どもたちが参加し、歴史や文化芸術に親しむ機会を創出します。	生涯学習課
ふるさと文化伝承事業	民俗芸能が伝承されている地域内の小学校を拠点として、それらの学校の3年生または4年生を対象に、地域の民俗芸能保存団体と連携した体験学習を実施し、次世代への継承を図ります。	生涯学習課
いたばし花火大会	東京を代表する夏の風物詩となった花火大会を通して、区民生活に憩いと潤いを与えるとともに、自分たちの住むまちへの愛着を深めることを目的に開催します。	くらしと観光課
板橋農業まつり	農業祭品評会をはじめ、区民農園収穫祭、収穫体験など様々なイベントを総合的に実施し、都市農業の存在意義を広く発信することにより、区内農業のPRや活性化を図ります。	赤塚支所
施策4: 文化財の発掘と保存・活用		
旧粕谷家住宅復元整備	東京都の有形文化財である「旧粕谷家住宅」がもつ歴史的価値を適切に保存し、観光資源として活かすことで、地域の活性化に寄与します。	生涯学習課
近代化遺産としての史跡公園整備★	国の史跡に指定された板橋火薬製造所がもつ歴史的価値を活かし、都内初となる近代化・産業遺産を保存・活用した史跡公園を整備します。	生涯学習課
文化財ふれあいウィーク	日頃は一般公開されていない貴重な区登録・指定文化財などを、地域・期間を設定して公開・紹介することにより、文化財に対する理解の促進と保護・継承の意識を高めます。	生涯学習課

【目標3 誰もが文化芸術活動を楽しみ、参加できる環境を整える】

事業名	事業概要	担当部署
施策5:次代の文化芸術を創造する人材の育成		
絵本ワークショップ★	区内小・中学生を対象に絵本づくりワークショップを実施し、絵とストーリーを自分自身で考え、オリジナルの物語を作成します。中学生向けでは、区内印刷・製本企業の協力により本格的な絵本製作体験を行います。	中央図書館
クラシック音楽オーディション&新進音楽家フレッシュコンサート	区内の新進音楽家を発掘するため、区内在住・在勤・在学の18歳以上を対象に、声楽、ピアノなどの楽器、アンサンブル、編曲のオーディションを行い、合格者による発表会を開催します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
アウトリーチ事業(出張事業)	音楽・芸術・芸能などの活動者や区内の文化芸術団体などと協働し、学校や福祉施設などでアウトリーチ事業を行うことにより、多くの人が文化芸術に親しみ、潤いや楽しむ機会を提供します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
ひよこ・たぬきアトリエ	3歳から小学生を対象に、絵本作家やアーティスト、デザイナーなど様々なジャンルで活躍する講師を迎え、親子で楽しく造形遊びをします。	美術館
施策6:文化芸術を推進する環境の整備		
文化・国際交流財団情報誌「ふれあい」の発行	文化・国際交流財団による文化芸術情報誌を発行し、文化芸術に関する情報発信の充実を図ります。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
文化芸術活動振興助成・顕彰	文化芸術活動などを積極的に行う個人または団体に対して助成金を支給したり、表彰を行うことで、活動の活性化を推進するとともに、文化芸術の創造基盤の充実を図ります。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
アーティストバンクくいたばし★	板橋区ゆかりのアーティストを発掘するとともに情報発信を行い、区内の文化芸術活動の活性化や地域における交流を促進します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
板橋区観光アプリ「ITA-マニア」★	区内のおすすめスポットやグルメ情報の検索、散策ルートの自動作成、VR(仮想現実)やAR(拡張現実)技術を活用した観光体験など、“歩くこと自体を楽しめる”板橋区観光アプリを運営します。	くらしと観光課
文化会館による施設運営の充実	区民ニーズに適う文化施設の機能を高めるとともに、多様な文化芸術事業の充実を図ります。	文化・国際交流課
施策7:障がい者の文化芸術活動の推進		
障がい者週間記念行事	障がい者週間を記念し、各種事業、作品展示、販売を行うとともに、障がい者福祉の増進に努め、功績のあった方を表彰することにより、障がい者の社会参加の場を広げ、地域におけるノーマライゼーションの普及、促進を図ります。	障がいサービス課
福祉施設における創作活動	区立福祉園において、創作活動の機会を提供するとともに、創作作品のブランド化及び商品販売を推進します。	障がいサービス課



## (2) 多文化共生

### 【目標1 言葉の壁を感じることをないまちを実現する】

事業名	事業概要	担当部署
<b>施策1:多様な言語、メディアによる行政・生活情報の提供</b>		
外国人への広報活動の体制整備	必要な情報や区役所の案内を多言語で作成し、転入手続きなどをする外国人に配付します。また、「わたしの便利帳」に準ずるリーフレットを、多言語で作成します。	文化・国際交流課
文化・国際交流財団情報誌「アイシェフ・ボード」の多言語化	国際交流事業や外国人に役立つ区政情報を中心に掲載した、広報いたばしに準ずる文化・国際交流財団情報誌「アイシェフ・ボード」を多言語で作成します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
区ホームページの多言語化	自動翻訳機能などのホームページ閲覧支援ツールを提供し、区公式ホームページに掲載されている行政情報を必要としている方に届けます。	広聴広報課
看板・案内板などの多言語化★	施設内の案内板や呼びかけ看板などを多言語で作成したり、道路標識を英語化したりすることで、日本語が分からない外国人が安心して施設などを利用できるようにします。	—
行政情報の多言語化	日本語が十分に話せない方でも安心して行政手続きができるよう、パンフレットや関係書類を「やさしい日本語」や各種言語に翻訳することで、必要な方に情報を届けます。	—
<b>施策2:日本語及び日本社会に関する学習機会の提供</b>		
日本語教室の開催	日本語を話せない外国人のために、日常生活を送るうえで基本的な初級レベルの日本語を学習する文化・国際交流財団主催の教室を実施します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
日本語初期学習集中講座	日本語での意思疎通が困難な子どもが区立学校に就学するにあたり、学校生活に初期に適応できるよう、日本語を短期間で集中的に学ぶ講座を実施します。	学務課
日本語ボランティア養成講座	文化・国際交流財団主催の日本語教室で日本語を教えることができるよう、ボランティアを養成するとともに、定期的にフォローアップを行います。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団

【目標2 誰もが安心・安全に暮らし、地域に愛着を持てる環境を整える】

事業名	事業概要	担当部署
施策3:日常生活における各種支援		
通訳・翻訳業務などの実施	国際交流員やボランティアによる庁舎窓口などでの通訳や行政文書などの翻訳のほか、窓口における電話の受け渡しを介した三者間通訳を実施します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
外国人相談会の開催	外国人を対象に弁護士などの専門家に無料で相談できる外国人相談会を実施し、必要に応じて通訳を付けます。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
施策4:災害に対する備えの充実		
多言語での防災情報の提供	外国人に防災情報を提供するとともに、防災意識を高めてもらうため、災害に備える内容のパンフレットを多言語で作成、配布します。	文化・国際交流課
外国人の防災訓練への参加促進★	既に実施している防災訓練に、外国人が参加しやすいように通訳ボランティアを配置したり、広報活動を多言語で行うなどの工夫をします。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団 地域防災支援課

【目標3 国際理解を促進し、多文化共生の担い手を育てる】

事業名	事業概要	担当部署
施策5:交流事業の実施及び活動支援		
海外姉妹友好都市などとの区民交流の促進★	海外姉妹友好都市などへの区民ツアーの派遣や、交流都市の文化などを紹介する講座の開催など、区が提携した海外都市との区民レベルの交流を促進し、理解を深めることを目的とした事業を実施します。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
ホームステイ・ホームビジットの実施	ホームステイ・ホームビジットを通して、外国人が日本の文化や生活を体験できるよう、ホストファミリーを紹介し、区民・市民間の交流の促進を図ります。	文化・国際交流課 文化・国際交流財団
施策6:国際理解・多文化理解に関する啓発事業などの実施		
国際理解教育の授業の実施	区内の小中学生に異文化に対する開かれた意識などを醸成するために、外国人が自国の文化・習慣を紹介したり、児童・生徒が自分たちで調べたりする授業を実施します。	指導室
英語教育の実施	外国人英語補助指導員(ALT)による生きた英語を学び、児童・生徒の国際理解を深める授業を実施します。	指導室

## 6 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会設置要綱

(令和元年12月23日区長決定)

(設置目的)

第1条 東京都板橋区文化芸術振興基本条例(平成17年板橋区条例第29号)第3条第2項に基づく文化芸術の振興に関する基本的な計画と多文化共生の推進にかかる基本計画を一つのビジョンとして策定するにあたり、区民や団体、専門家などから意見や助言・知見などを得るため、いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会(以下「検討会」という。)を設置する。

(所掌事項)

第2条 検討会は、次に掲げる事項を所掌するものとする。

- (1) 文化芸術及び多文化共生のビジョンに関すること。
- (2) 文化芸術の振興及び多文化共生の推進にかかる施策の方向性に関すること。
- (3) その他会長が必要と認める事項

(構成)

第3条 検討会は、次の各号に掲げる者のうちから、区長が委嘱又は任命する13名以内の委員で構成する。

- (1) 学識経験者
- (2) 文化芸術・多文化共生関連団体の代表者
- (3) 区民公募委員
- (4) 区職員

2 会長は、委員の互選によって選出する。

3 副会長は、会長が指名する。

(委員の任期)

第4条 委員の任期は、委嘱又は任命の日から2年以内とし、再任を妨げない。ただし、前条第1項第3号の区民公募委員については、原則として1期限りとする。

2 委員が欠けたときは、その後任者の任期は、前任者の任期の残存期間とする。

(検討会の運営)

第5条 検討会は、会長の招集により開催する。ただし、会長が選出されるまでは、区長が招集する。

2 会長は、検討会を代表し、会務を統括する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

4 検討会は、委員の半数以上の出席がなければ、会議を開くことができない。

5 検討会は、必要があると認めるときは、委員以外の者の出席を求め、意見を聴くことができる。

(部会の設置)

第6条 検討会は、特定の課題を調査・検討するため、部会を設置することができる。

2 各部会の委員は12名以内をもって構成し、会長が任命する。

3 各部会の委員の任期は、各部会の設置期間とし、検討会において定める。

(庶務)

第7条 検討会の庶務は、区民文化部文化・国際交流課において処理する。

(委任)

第8条 この要綱に定めるもののほか、検討会の運営について必要な事項は、区民文化部長が別に定める。

付 則

1 この要綱は、決定の日から施行する。

2 板橋区文化芸術振興ビジョン策定懇談会設置要綱は、廃止する。

## 7 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会・部会委員

### いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会

役 職	氏 名	所属など
会 長	岡田 匡令	淑徳大学名誉教授
副会長	木村 政司	日本大学藝術学部長
委 員	駒形 克己	造本作家／デザイナー
委 員	杉田 理恵	クレア地域国際化推進アドバイザー
委 員	山口 謠司	大東文化大学文学部准教授
委 員	小林 保男	板橋区文化団体連合会会長
委 員	帯刀 繁	(公財)板橋区文化・国際交流財団事務局長
委 員	別府 明雄	板橋区観光協会会長
委 員	真木 亨	リンテック株式会社CSR推進室長
委 員	山口 藍	区民公募委員
委 員	王 眉眉	区民公募委員
委 員	有馬 潤 (令和元年度) 森 弘 (令和2年度)	板橋区区民文化部長
委 員	松田 玲子 (令和元年度) 湯本 隆 (令和2年度)	板橋区教育委員会事務局地域教育力担当部長

### 文化芸術部会

役 職	氏 名	所属など
会 長	小林 保男	板橋区文化団体連合会会長
委 員	鈴木 千秋	劇団ふあんハウス
委 員	帯刀 繁	(公財)板橋区文化・国際交流財団事務局長
委 員	寺澤 森秋	板橋区伝統工芸保存会会長
委 員	馬場 充好	板橋区青少年音楽振興協会会長
委 員	平井 真奈	いたばしボローニャ子ども絵本館企画運営委員
委 員	松井 利重子	前板橋区混声合唱団団長
委 員	宮内 直子	板橋区演奏家協会
委 員	山口 藍	区民公募委員
委 員	家田 彩子	板橋区教育委員会事務局生涯学習課長
委 員	折原 孝	板橋区区民文化部文化・国際交流課長

### 多文化共生部会

役 職	氏 名	所属など
会 長	岡本 信広	大東文化大学国際関係学部国際関係学科主任・教授
委 員	小野 未弥	(公財)板橋区文化・国際交流財団国際交流係長
委 員	謝 暁慶	(公財)板橋区文化・国際交流財団国際交流員
委 員	白井 陽子	高島平二丁目団地自治会副会長
委 員	名古屋 啓子	(公財)板橋区文化・国際交流財団日本語教室
委 員	松浦 克美	アン・ランゲージ・スクール成増校校長
委 員	王 眉眉	区民公募委員
委 員	星野 邦彦	板橋区教育委員会事務局学務課長
委 員	折原 孝	板橋区区民文化部文化・国際交流課長

敬称略・順不同



## 8 いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会・部会検討経過

### いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン検討会

	年月日	議題
第1回	令和2年3月25日	○委嘱状伝達式 ○検討の進め方について
第2回	令和2年6月24日	○部会中間報告 ○課題や方向性の検討 ○報告書の構成について
第3回	令和2年9月2日	○報告書まとめ ○ビジョン理念などの審議

### 文化芸術部会

	年月日	議題
第1回	令和2年6月3日	＜テーマ別検討＞ ①板橋区の特色ある文化芸術 ②文化芸術活動の場
第2回	令和2年7月7日	＜テーマ別検討＞ ③文化芸術にかかる情操教育 ④障がい者の文化芸術推進
第3回 (書面会議)	令和2年8月3日 ～ 令和2年8月13日	検討内容まとめ

### 多文化共生部会

	年月日	議題
第1回	令和2年6月1日	＜テーマ別検討＞ ①板橋区の特色ある国際交流 ②日本語教育とやさしい日本語・多言語対応
第2回	令和2年7月10日	＜テーマ別検討＞ ③国際理解教育・多文化理解 ④地域における外国人との共生と災害対策
第3回 (書面会議)	令和2年8月3日 ～ 令和2年8月13日	検討内容まとめ

## 9 東京都板橋区文化芸術振興基本条例

(平成17年6月23日 東京都板橋区条例第29号)

(目的)

第1条 この条例は、板橋区(以下「区」という。)における文化芸術の振興についての基本理念を定め、区の責務を明らかにするとともに、文化芸術の振興を図るための施策(以下「文化芸術振興施策」という。)の基本となる事項を定め、地域における文化芸術の振興を図ることにより、心豊かな区民生活の実現に寄与することを目的とする。

(基本理念)

第2条 文化芸術の振興に当たっては、文化芸術を創造し、享受する者の権利を尊重するとともに、文化芸術活動を行う者の自主性が十分に尊重されなければならない。

2 文化芸術の振興に当たっては、地域の歴史、風土等を反映した特色ある文化芸術の発展が図られなくてはならない。

3 文化芸術の振興に当たっては、地域における伝統文化の保存並びに文化芸術活動の保護及び発展が図られなくてはならない。

(区の責務)

第3条 区は、区民が文化芸術を鑑賞し、若しくは創造し、又は文化芸術活動に参加することができる環境の整備に努めるものとする。

2 区は、文化芸術の振興に関する基本的な計画を定め、文化芸術振興施策を総合的に推進するものとする。

(区民及び民間団体等の役割)

第4条 区民は、創意を生かした自主的かつ創造的な文化芸術活動に努めるとともに、文化芸術活動を行うに当たっては、相互に理解し合い、尊重し合うよう努めるものとする。

2 民間団体等(企業、学校、非営利活動を行う団体、地域団体等の団体をいう。)は、自主的に文化芸術活動を展開するとともに、区民の文化芸術活動の支援に努めるものとする。

(重点目標)

第5条 区は、次に掲げる事項を重点目標とし、その達成のために必要な文化芸術振興施策を講ずるものとする。

(1) 区民共通の財産である文化財及び民俗芸能等の伝統文化の保護及び保存を行い、その継承及び発展を図ること。

(2) 将来を担う青少年が行う文化芸術活動を推進するため、優れた文化芸術に触れ、多様な文化芸術活動を行うことができる機会の提供及び学校教育における文化芸術に関する体験学習等の充実を図ること。

(顕彰)

第6条 区は、優れた文化芸術活動を行った者及び団体に対し、顕彰を行うものとする。

付 則

この条例は、公布の日から施行する。

いたばし文化芸術・多文化共生ビジョン 2025  
資料編

編集 板橋区区民文化部文化・国際交流課  
〒173-8501 板橋区板橋二丁目 66 番 1 号  
TEL 03-3579-2018 FAX 03-3579-2046  
kb-bk-kanri@city.itabashi.tokyo.jp

令和 3 年 3 月発行

---

刊行物番号 R02-106



板橋区 〒173-8501 東京都板橋区板橋二丁目66番1号 URL <http://www.city.itabashi.tokyo.jp/>